

官報

號外

大正十年三月十日 木曜日

印刷局

第四十四回 衆議院議事速記錄第二十四號

大正十年三月九日(水曜日)午後一時十八分開議

議事日程 第二十三號 大正十年三月九日

午後一時開議

- 第一 貯蓄銀行法案(政府提出) 第一讀會/續(委員長報告)
- 第二 銀行條例中改正法律案(政府提出) 第一讀會/續(委員長報告)
- 第三 公有水面埋立法案(政府提出) 第一讀會/續(委員長報告)
- 第四 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案(戶符權之助君外八十六名提出) 第一讀會/續(委員長報告)
- 第五 決議案(齋藤總督ノ朝鮮統治ニ關スル件)(三木武吉君提出) 第一讀會
- 第六 刑事訴訟法中改正法律案(禰苗代君提出) 第一讀會
- 第七 刑法中改正法律案(禰苗代君提出) 第一讀會
- 第八 刑法中改正法律案(宮古啓三郎君外七名提出) 第一讀會
- 第九 未成年者飲酒禁止法案(根本正君外五名提出) 第一讀會
- 第十 非役壯丁稅法案(荒川五郎君外六名提出) 第一讀會
- 第十一 辯護士法改正法律案(鷲澤總明君外九名提出) 第一讀會
- 第十二 所得稅法中改正法律案(岩本平藏君外九名提出) 第一讀會
- 第十三 明治三十四年法律第三十號中改正法律案(齋藤總明君外六名提出) 第一讀會
- 第十四 地方學事通則中改正法律案(竹上藤次郎君提出) 第一讀會
- 第十五 沒祿者給與法案(熊谷直太君外八名提出) 第一讀會
- 第十六 營業稅法中改正法律案(荒川五郎君提出) 第一讀會

- 第十七 民法中改正法律案(奧村安太郎君提出) 第一讀會
- 第十八 地租條例中改正法律案(下田勘次君外二名提出) 第一讀會
- 第十九 佐賀監獄移轉ニ關スル建議案(川原茂輔君外三名提出) (委員長報告)
- 第二十 川内川改修ニ關スル建議案(林亮君外五名提出) (委員長報告)
- 第二十一 航空事業ノ擴張及其ノ行政機關ノ統一ニ關スル建議案(三善清之君外五名提出) (委員長報告)
- 第二十二 徵兵令事務施行細則改正ニ關スル建議案(植原悅二郎君提出)
- 第二十三 產業組合法及重要物產同業組合法改正並同組合振興ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第二十四 成年調查ニ關スル建議案(奧村安太郎君外一名提出)
- 第二十五 石油政策ニ對スル燃料調查會設立ニ關スル建議案(高野毅君提出)
- 第二十六 特別市制促進ニ關スル建議案(作間耕逸君外五名提出)
- 第二十七 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(秋本喜七君外二名提出)
- 第二十八 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外六名提出)
- 第二十九 免囚差別待遇撤廢ニ關スル建議案(鮎川威貞君提出)
- 第三十 救世軍補助ニ關スル建議案(橫山勝太郎君提出)
- 第三十一 科學知識普及ニ關スル建議案(鈴木錠藏君提出)
- 第三十二 遠美鐵道速成ニ關スル建議案(松浦五兵衛君外五名提出)
- 第三十三 大垣、大野、金澤間鐵道速成ニ關スル建議案(西村正則君外八名提出)

- 第三十四 熱海線完成ニ關スル建議案(森恪君提出)
 - 第三十五 米穀專賣法制定ニ關スル建議案(小菅劍之助君外三名提出)
 - 第三十六 商務省及工務省設置ニ關スル建議案(奧村安太郎君外一名提出)
 - 第三十七 癲狂院増設ニ關スル建議案(中馬與九君外三名提出)
 - 第三十八 傳染病豫防法改正ニ關スル建議案(松下禎二君外三名提出)
 - 第三十九 中央線淺川驛鹽山驛間電力速成ニ關スル建議案(三枝孝太郎君提出)
 - 第四十 賣藥營業稅廢止ニ關スル建議案(高見之通君外二名提出)
 - 第四十一 大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案(山口義一君外四名提出)
 - 第四十二 國分岩川間鐵道敷設ニ關スル建議案(日野辰次君外一名提出)
 - 第四十三 櫻井松坂間鐵道速成ニ關スル建議案(津野田是重君外九名提出)
 - 第四十四 勢江鐵道速成ニ關スル建議案(天春文衛君外七名提出)
 - 第四十五 西條松山間鐵道豫定線一部變更ニ關スル建議案(成田榮信君外五名提出)
 - 第四十六 溫泉政策ニ關スル建議案(成田榮信君外一名提出)
 - 第四十七 港灣行政ニ關スル建議案(三善清之君外四名提出)
 - 第四十八 鹿兒島縣各離島航海補助増額ニ關スル建議案(禰苗代君外七名提出)
- 議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス
〔原田書記官朗讀〕
一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(特第一號)大正十年度各特別會計歲入歲出豫算追加案
産業組合法中改正法律案
住宅組合法案
朝鮮私設鐵道補助法案
(以上三月八日提出)

樺太地方鐵道補助法案
明治四十一年法律第三十五號中改正法律案
(以上三月九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

貯蓄銀行法案ニ對スル修正案

提出者 紫安新九郎君
手島 敏司君
松井 鏡夫君
武内 作平君
金田平兵衛君

刑法中改正法律案

提出者 中西六三郎君
前田 米藏君
熊谷 直太君
廣岡宇一郎君
岩崎 勳君
島田 俊雄君

刑事訴訟法中改正法律案

提出者 中西六三郎君
前田 米藏君
熊谷 直太君
廣岡宇一郎君
岩崎 勳君
島田 俊雄君

民事訴訟法中改正法律案

提出者 中西六三郎君
前田 米藏君
熊谷 直太君
廣岡宇一郎君
岩崎 勳君
島田 俊雄君

埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案

提出者 粕谷 義三君
長谷川宗治君
高田 良平君
綾部惣兵衛君
神谷 彌平君
三善 清之君
蕙井 藤吉君

土器川外四川改修ニ關スル建議案

提出者 大林森次郎君
田中 定吉君
松田 三徳君
三善 清之君
蕙井 藤吉君

労働組合法ノ制定並労働局設置ニ關スル建議案

提出者 近藤 達兒君
酒造税法中改正ニ關スル建議案
提出者 早川 龍介君
山邑太三郎君

吳三原間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 佐々木千秀君
金田平兵衛君
提出者 田川大吉郎君

剩餘金並益金ノ繰入ニ關スル建議案

提出者 田川大吉郎君
菅原 傳君
提出者 北山 一郎君
阿部武智雄君
中西六三郎君
東 武君
松本孫右衛門君
鈴木 巖君
野村治三郎君

青森築港國營ニ關スル建議案

黒住 成章君 宇野 勇作君
熊谷 直太君 栗林 五朔君
原田藤次郎君 榎田清兵衛君
梅田 潔君
信樂(貴生川加茂間)輕便鐵道敷設ニ關スル建議案
提出者 安原仁兵衛君 長田 桃藏君
(以上三月八日提出)

境港修築速成ニ關スル建議案

提出者 清瀬規矩雄君 山口 嘉藏君
島田 俊雄君 佐野 正雄君
若林 徳懋君 櫻内 幸雄君
平田民之助君
(以上三月九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

第十二師團兵器部下關倉庫移轉ニ關スル質問主意書
提出者 藤井 啓一君
養蠶業者救済ニ關スル再質問主意書
提出者 山邊 常重君
(以上三月八日提出)

軍紀振肅ニ關スル質問主意書

提出者 田中 武雄君
(以上三月九日提出)

一昨八日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

作業會計法中改正法律案(政府提出)
海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案(政府提出)
獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入税免除ニ關スル法律案(政府提出)

一昨八日政府ヨリ受領シタル報告左ノ如シ
大正七年四月一日ヨリ大正八年三月三十一日ニ至ル各省所管官有財産増減異動報告
大正八年四月一日ヨリ大正九年三月三十一日ニ至ル各省所管官有財産増減異動報告
(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ参照ノタメ茲ニ掲載ス)

一昨八日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ如ク變更セリ

三三 福地 錢吉君 三九 大口 喜六君
一昨八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
大正九年法律第十號中改正法律案外一件

山本条太郎君 市村 貞造君 鈴木 巖君
伊藤 虎助君 木村作次郎君 石川 三郎君
鈴木周三郎君 龍口 了信君 木村權右衛門君
職業紹介法案
安原仁兵衛君 土屋 興君 川口誠三郎君
野村治三郎君 國重 政亮君 上塚 司君
清水留三郎君 太田信治郎君 南 鼎三君

水道條例中改正法律案

麓 純義君 長谷場 敦君 鐸木三郎兵衛君
柳原九兵衛君 山田 永俊君 大林森次郎君
作間 耕逸君 磯貝 浩君 納富 陳平君
供託法中改正法律案
西村 正則君 穴水 要七君 岩崎幸治郎君
大石 大君 久木田 叶君 横山勝太郎君
野呂丈太郎君 木槍三四郎君 高草美代藏君

一昨八日小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外一件委員松下禎二君辭任ニ付其ノ補闕トシテ守屋松之助君ヲ府縣制中改正法律案外八件委員川原茂輔君淺野順平君辭任ニ付其ノ補闕トシテ高山長幸君小池仁郎君ヲ貯蓄銀行法案外一件委員上田彌兵衛君武内作平君辭任ニ付其ノ補闕トシテ秋田悅造君鶴澤宇八君ヲ孰レモ議長ニ於テ選定セリ

一今九日貯蓄銀行法案外一件委員紫安新九郎君辭任ニ付其補闕トシテ下田勘次君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一今九日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
職業紹介法案委員
委員長 安原仁兵衛君 理事 土屋 興君
水道條例中改正法律案委員
委員長 麓 純義君 理事 山田 永俊君
大正九年法律第十號中改正法律案外一件委員
委員長 山本条太郎君 理事 石川 三郎君
今九日委員長及理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

貯蓄銀行法案外一件委員
理事 秋田悅造君(理事上田彌兵衛君補闕)
理事 鶴澤宇八君(理事武内作平君補闕)
府縣制中改正法律案外八件委員
委員長 田邊熊一君(委員長川原茂輔君補闕)
理事 植原悅二郎君(理事板野友藏君補闕)

○議長(奥繁三郎君)會議ヲ開キマス諮問致シマス、事ガアリマス議員山本厚三君事故ニ由リ三月十日ヨリ十日

間、議員尾崎行雄君事故ニ由リ三月九日ヨリ十日間、議員木下十四三君事故ニ由リ三月九日ヨリ十四日間、議員石川三郎君事故ニ由リ三月九日ヨリ十四日間、議員南里琢一君事故ニ由リ三月九日ヨリ十四日間、執レモ請暇ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 御異議ゴザイマセヌカラ許可致シマス。日程第一第二八同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト致シマス。第一貯蓄銀行法案、第二銀行條例中改正法律案ヲ一括シテ、其第一讀會ノ續ヲ開キス委員長波多野承五郎君

第一 貯蓄銀行法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一貯蓄銀行法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十年三月八日 貯蓄銀行法案委員長 波多野承五郎

第二 銀行條例中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一銀行條例中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十年三月八日 銀行條例中改正法律案委員長 波多野承五郎

衆議院議長奥繁三郎殿

波多野承五郎君登壇、拍手起ル

○波多野承五郎君 貯蓄銀行法案ト銀行條例中改正、此二案ニ就テ委員會ノ經過ト結果ヲ御報告致シマス、第一貯蓄銀行法案ニ就テハ、討議ノ際上田彌兵衛君カラ修正ノ案ガ出マシタ、同時ニ武内作平君カラモ修正案ガ出マシタ、其武内君ノ修正ト上田君ノ修正ト、共通シテ居ル點ガ三箇條ゴザイマシタガ、武内君ノハ上田君ノト別ナ修正ハ一ツモアリマセヌデシタカラ、此經過ヲ報告致シマス、上田君ノ修正案ヲ御報告申上ゲマスレバ、其際ニ同時ニ武内

君ノ修正ノ事ヲ申上ゲルコトガ出來ルヤウニナルノデアリマス、其修正ノ第一ハ第一條第一項第二號中「十圓未満」トアルノヲ「二十圓未満」ニシタイト云フ說ゴザイマス、是ハ貯蓄銀行トシテハ二十圓未満ト云フコトニナツテ居ラヌト、營業上不利益デアアル、二十圓未満ノ金ヲモ普通銀行ガ預リ得ルヤウナコトデハ、貯蓄銀行ハ宜クナイ、斯ウ云フ大體御說ノヤウデゴザイマス、之ヲ否トスル方ノ說ハ、元來ガ五圓ト云フコトニナツタノヲ、政府案デハ之ヲ十圓ニ改メタルアルカラ、此案ガ丁度宜シ、都會ノ地ニ於テハ或ハ二十圓ト云フコトヲ決メラレテモ、普通銀行ガ困ラナイ銀行モアルカモ知レヌガ、地方ニ於テハ普通銀行ガ二十圓未満ノ金ヲ預ルコトガ出來ヌト云フコトデハ、普通銀行ノ利益ヲ侵害サレルコトガ甚シ、斯ウ云フヤウナ反對ノ議論デゴザイマシタ、其次ニハ第三條ヲ削除スル、政府案ノ第三條ト云フノハ、貯蓄銀行ノ資本金ハ五十萬圓以上ト云フコトニナツテ居ル、之ヲ削除シタ、要スルニ資本金ノ制限ヲ廢メニシヤウト云フ御說デゴザイマシタ、之ニ對スル反對ハ、抑、貯蓄銀行法ノ改正ノ要旨ハ、貯蓄銀行ヲ保護シタイト云フ方ノ趣意デハナクシテ、貯蓄者其者ヲ保護シタイト云フコトデアル、仍テ五十萬圓以上ト云フ位ナ銀行デナケレバナラヌ、更ニ之ニ對シテハ貯蓄銀行ハ無限責任デアラカラ、資本金ガ五十萬圓以上デナイカラト云フテモ、個人ノ責任ガ無限デカラ大丈夫デアラウ、斯ウ云フ說ニ對シテハ、重役ハ設立ノ初メカラ必ズ代ラヌモノデハナイノデアリマスカラ、資本金ニ於テ五十萬圓以下ト云フコトガナケレバナラヌ、斯ウ云フ說ノヤウデゴザイマシタ、其次ハ貯蓄銀行ヲシテ小切手ヲ發行サセタイ、但シ預メテ居ル金ノ範圍内ニ於テ、小切手ヲ振出スコトヲ許シタイ、而シテハ預メテ居ル金ノ範圍内ニ於テ小切手ヲ發行スルト云フコトハ、何等弊害ガ無イデハナイカ、且ツ甚タ便利デハナイカ、斯ウ云フ御說ノヤウデゴザイマシタ、之ニ反對スル說ハ、小切手ヲ發行スルト云フコトハ、元來普通銀行商業銀行ノ當ニ爲スベキ事デ、貯蓄銀行ノ範圍ニ屬スルモノデハナイト思フ、殊ニ貯蓄ト云フモノハ、零碎ナ金ヲ段々積上ゲテ行クコト貯蓄デアアルノニ、之ヲ便利ニ振出シテ拂出スト云フコトハ、貯蓄銀行ノ趣旨ニ合ハヌト云フコトガ、之ニ反對スル議論ノヤウデゴザイマシタ、此箇條ハ前申シマシタ武内君ノ御提出ノ修正ト一致シテ居ルノデアリマス、其次ハ第九條ノ但書デ供託金ノ問題デゴザイマス、供託金ハ預リ金ノ四分ノ一マデヲ國庫債券ニシナケレバナラヌ、而シテ預リ金ノ三分ノ一マデヲ供託シナケレバナラヌト云フコトニ政府案ハナツテ居ル、ソレヲ供託金ノ半分ダケ——供託金ト云フノハ預リ金ノ三分ノ一デゴザイマスカラ、其半分ト

云フノハ、即チ六分ノ一ダケヲ國庫債券ニシタイ、斯ウ云フ御說デゴザイマシタ、之ニ對スル反對ハ、抑、供託金ト云フモノハ、安全ニシテモ何時モ速ニ金ニ換ヘラレ得ルモノニシタイノデアリマスカ故ニ、全部ヲ國庫債券ニシタイト思フノデアアルノニ、之ヲ半分即チ三分ノ一、五ニシタイト云フ說ハ此案ヲ骨抜ニスルコトデアラカラ、到底之ニ同意スルコトハ出來ヌト云フコトデアリマス、此案モ矢張武内君ノ法案ト共通シテ居ル案デゴザイマシタ、其次ハ供託金ト云フモノハ、預リ金ニ對スルノ三分ノ一デゴザイマシタガ、今後ノ改正案ニ依リマスルト、預メテ居ル金ヲ擔保トシテ金ヲ貸スト云フコトガ、此條例ノ中デ許サレテ居ル、一方デハ金ヲ預メテ居リ、一方デハ金ヲ貸シテ居ル、サウスルト預リ金ニ於テハ預リノ科目ニ入テ居ルカラ、其三分ノ一ヲ供託スルノデアリマスケレドモ、何ゾ知ラン其預リ金ノ中カラ預リ金ヲ擔保トシテ金ヲ貸シテ居ル以上ハ、互ニ相殺シテ、預メテ居ラヌト同ジ事ニナルノデアアル、然ルニ其貸金ヲ差引カナイデ預リ金ダケヲ合計シテ、其三分ノ一ヲ供託セシメヤウト云フノハ、一重供託ニスル意味ニナリハセヌカ、斯ウ云フ御說デゴザイマシタ、此御說ニ對シマシテハ、元來貸金ト預リ金ト云フモノハ別ナ性質ノモノデアラカラ、内部ニ於テ差別ガシテアルカラト云フテモ、預リ金ハ預リ金デアラカラ供託ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、モウ一ツハ預リ金ヲ其預リ金ヲ擔保トシテ金ヲ貸シタト云フケレドモ、其中ノドレガ本當ノ貸金デ、預リ金ヲ擔保トシタル貸金ハ、ドレ程デアルト云フ區別ヲ付ケルコトハ甚ダ困難デアアル、ドウ云フ方法デ檢査シテ、ドウ云フ方法デ貯蓄銀行ヲシテ證明セシムルカ、其區別ヲサセルコトハ困難デアルト云フコトガ、第三ノ理由ノヤウニ思ヒマシタ、第三ノ理由ハ貸金ト云フテモ、預リ金ヲ擔保トシテ金ヲ貸スノデアアルケレドモ、三箇月デ返スカ、一箇月デ返スカ、一箇年デ返スカ、期限ニ就テハ甚ダ不同ノモノデアアル、預リ金ハ長ク續クモノデアアル、然ラバドウ云フ方法デ之ヲ差引シテ宜イカト云フコトハ甚ダ困難デアアル、斯ウ云フヤウナ反對論ガゴザイマシタ、此箇條モ武内君ノ御修正ト共通シテ居ル點デゴザイマス、其次ハ第十三條第一項ノ中ニ個人ニ對スル貸付金ハ、貯蓄銀行ノ資本金ノ拂込額ト積立金トノ合計ノ十分ノ一デナケレバナラヌト云フ法律案、ソレヲ十分ノ一デハ小サイカラ、十分ノ三ニシナイカ、斯ウ云フ修正デアリマス、是ハ元來個人ニ金ヲ貸スト云フコトハ、自分ノ資本ノ拂込ト積立金トヲ貸スノデアラカラ、ソレノ十分ノ三ト云フコトニナルト、譬ヘテ言ハバ三人ニシカ貸セヌト云フコトニナルノデアアル、矢張十分ノ一ニシテ、十八位ニ貸スコトガ出來ルノガ適當デアラウト云フ御說ノヤウデゴザイマシタ、此事ニ就テ

ハ始終委員會ニ於テモ問題ガ蟠テ居リマシタガ、政府當局ノ考テハ、貯蓄預金ト云フヤウナモノハ、貸金ナドニ向ケルベキ性質ノモノデハナイ、全部國債證券若クハ大藏省ノ認可スル所ノ確實ナル債券ニ投資ヲシテ置イテ、イツ何時拂戻ガ來テモ、差支ナク拂ヘルヤウニシテ置クベキ性質ノモノデアラ、不動産ヲ其他ノ物ヲ以テ金ヲ貸スト云フコトハ、自ノ資本金ノ拂込額及積立金ヲ以テスベキモノデアルト云フ大體ノ主義ガアツテ、ソレカラ割出シテ十分ノ一ト云フモノガ出來タモノ、ヤウニ思フノデアリマス、即チソレ故ニ十分ノ三ト云フコトニ直シマスノハ、不當デアルト云フ考モ、ソレカラ出ルモノ、ヤウデゴザイマス、其次ハ二十二條ノ中ニ營業稅ヲ半分免除シヤウト云フ政府案ガゴザイマスガ、其次ハ所得稅ヲ免除スルコトヲモ加ヘテ貫ヒタイ、斯ウニ云フ說デゴザイマス、此所得稅ヲ免除シヤイト云フ說ニ對シテハ、營業稅ハ所得ノ有無ニ必ズシモ拘ラズニ、營業稅ト云フモノハ拂フノデアル、ケレドモ所得ト云フ以上ハ、既ニ所得ガアツテ所得稅ヲ課スルノデアルカラ、營業稅ヲ免除スル精神ト、所得ニ關スル稅ヲ免除スルコト、ハ違フ、是ハ免除スルニハ及ブマ、其次ニハ貯蓄銀行ガ發行スル通帳ノ印紙稅ヲ廢メテ貫ヒタイ、此廢メテ貫フコトニ就テノ反對論ハ、目下政府ニハ財政調査委員會ト云フモノガアツテ、是等ノ課目ヲ總テ審議シテ居ル、其審議ノ結果免除スベキモノハ免除シ、免除スベカラザルモノハ免除セズ、斯ウニ云フコトモ折角審議中デアルカラ、其審議ノ結果ヲ以テ、免除スベキモノハ免除スルガ宜カラウ、其審議ヲ待タズシテ、茲ニ免除スルト云フコトハ宜シクナイ、斯ウニ云フ御說デアリマス、是ガ大體ノ經過デゴザイマスガ、爰ニ特ニ申上ゲテナケレバナリマセヌノハ、此案ヲ議スル初カラシテ、此案ノ施行期日ニ就テ多勢ノ人ガ皆ナ懸念ヲ致シテ居リマシタ、殊ニ普通銀行ニシテ貯蓄銀行ヲ兼營シテ居ル銀行ガ、此法ノ施行ノ當日カラ、新タニ時蓄預金ヲ預ルコトガ出來ナイカラ、止メナクテハナラヌ、隨テ別ニ貯蓄銀行ヲ起シテ、其貯蓄預金ヲ振替ヘナケレバナラヌト云フコトガアルノニ、施行期限ハ短クテハ、ソレヲ移リ變ラセム時間ガ無イ、デアルカラ施行期限ハドウスルノデアラカト云フ議論ガ、初カラ委員中ニアツテデアリマス、ソレ故ニ高見ノ通君ガ特ニ政府ニ對シ、此施行期限ニ關スル質問ヲ致シタノデゴザイマス、政府ハ其質問ニ對シテ大正十一年一月一日カラ之ヲ施行スル、即チ今日ヨリ九箇月ノ餘裕ヲ置イテ、大正十一年一月一日カラ施行スルト云フコトヲ確實ニ政府ハ言明致サレマシテゴザイマス、此言明ニ對シテ高見君ハ特ニ満足ノ意ヲ表セラレ、並ニ倉石君モ此言明ニ對シテ満足ノ意ヲ表セラレテ、本案ニ賛成スルト云フコトヲ言ハレマシテゴザイマス、斯ノ如キ經過デ之ヲ採決致シ

マシタガ、武内君ト上田君ノ共通ノ案、即チ前申ス三箇條ニ就テ第一ニ採決致シマシタラバ、是ハ少數ヲ消滅致シマシタガ、其次ニ武内君ト共通シナイ上田君ノ案ヲ採決致シマシタガ、同ジク少數ヲ消滅致シマシタ、續イテ政府案ヲ採決致シマシタラバ多數デゴザイマシタ、斯ノ如ク貯蓄銀行法ハ定マリマシタガ、第二ノ銀行條例中ノ改正案之ニ就テハ別ニ修正案モ何モ出マセヌノデ、採決致シマシタラバ、全會一致ヲ以テ可決スルコトニ相成リマシテゴザイマス、是ガ御報告デゴザイマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 一讀會ノ場合別段討論ノ通告ハアリマセヌ、採決致シマス、此兩案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奧繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナイト認メマス、仍チ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 日程第一及第二ニ掲ゲタル兩案ヲ一括シテ、直チニ其第二讀會ヲ開クコトヲ望ミマス

〔贊成ニ贊成ノ聲起ル〕

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍チ直チニ其第二讀會ヲ開キマス

貯蓄銀行法案

銀行條例中改正法律案

第二讀會

第二讀會

○議長(奧繁三郎君) 納富陳平君外二名、及紫安新九郎君外四名ヨリ、貯蓄銀行法案ニ對シテ修正案ガ提出サレテ居リマス、仍チ其趣旨ノ辯明ヲ許シマス——納富陳平君

〔納富陳平君登壇 拍手起ル〕

○納富陳平君 私ハ政府ガ提案ナサレマシタ所ノ貯蓄銀行法ニ對シテ數箇所ニ涉ッテ、修正ノ意見ヲ述ベントスルモデアリマス、只今波多野委員長ヨリ詳細ニ涉ッテ説明ガアリマシタカラ、茲ニ私ハ極ク簡單ニ申上ゲテ御判斷ヲ願ヒタイト思ヒマス、政府ガ今回貯蓄銀行法ヲ提出ナサレマシテ預金者ニ對シテ十分ナル保障ヲスルト云フ御意思ハ、既ニ提出ノ理由ニ於テ書カレマシタ通り明白デアリマス、此主義ノ下ニ政府ガ非常ナル努力ヲ費シテ作成サレマシタ所ノ此法案ニ對シテ、私ハ最も敬意ヲ表スル一人デアリマス、漫リニ之ヲ非難シ、或ハ非議セント欲スル者デアリマセヌガ、詳細ニ逐條ニ涉ッテ考ヘマスト、預金者ノ保護ニ關係ナイ點ニ於テ、少クとも銀行業者ノ立場カラ看テ見マシテ、何程カ苛酷ニ過ギハシマイカト思フ點ガ四五アリマスカラ、私ハ爰ニ其點ヲ述ベマシテ、御判斷ヲ願ヒタイト存ズル次第デアリ

マス、若シモ政府ガ此原案ノ儘ニ於テ之ヲ施行致シマスナラバ、現在良好ニ發達シテ居リマス所ノモノ、及將來ニ於テ貯蓄銀行ナルモノヲ設ケマシテ、益、貯蓄獎勵ノ權威ノアル所ノ一機關トシテ働カント欲スル所ノ者ハ、茲ニ何程カ不便ヲ感ズ、或ハ躊躇スルヤウナ虞ガ無イカト私ハ考ヘマス、私ガ灰ニ聞キマス所ニ於テハ、目下銀行經營者ノ不注意、或ハ故意不謹慎ノ結果、非常ナラ蹉跌ヲ來シマシテ、預金者ニ多大ノ迷惑ノ掛ケテ居ル所ノモノガ四五アルヤウニ思ヒマスガ政府ガ今回ノ提案ノ理由モ、亦專ラ此ニ基イテ居ルト私ハ信ジマス、私ハ敢テ此點カラ看テ見マシテモ、此政府ノ御意思ノ在ル所ニ對シテ没リニ反對ハ致シマセヌガ、若シモ斯様ナル事ノニ依ッテ、少クとも銀行ノ經營ガ困難デアルカ否ヤヲ御考ニナラヌヤウナコトガゴザイマシタナラバ、少クとも貯蓄銀行ト云フモノ、完全ヲ期スルコトガ出來マセズシテ、却テ政府ガ貯蓄ヲ獎勵スルコトヲ御趣意ヲ裏切ルト云フ結果ヲ來サヌカト私ハ信ズル結果、爰ニ修正ノ意見ヲ陳述スル次第デゴザイマス、第一條第一項第二號中、「十圓未滿」トアリマスモノヲ、「二十圓」ト改メタイト思ヒマス、此現在ノ貯蓄銀行條例ハ、明治二十二年頃カラ大正四年マデニ二、三回ノ修正ヲ經マシタヤウナモノデゴザイマシテ、其當時ト今日ノ金融ノ事情カラ看テ見マスルナラバ、又自ラソコニ多大ナル所ノ變化ガアルコトハ、諸君モ御同感ト私ハ信ジマス、故ニ此點ニ就テ政府ハ又御考慮ヲナサマシテ、五圓ト云フノ十圓ニ御改メニナラト私ハ聞イテ居リマスガ、進ンデ此際二十圓ニ私ハ修正致シタイ、或ハ二十圓ニ致シマシタナラバ、普通銀行ト何程カノ關係ヲ以テ、ソコニ不都合ヲ來スト云フ議論モアリマセウガ、普通銀行ニ於テ預リマス所ノ金、即チ相對手方ハ主ニ資本階級ニ屬スルモノデアリマシテ、少クとも其預金ハ資本化スベキ所ノ性質デゴザイマス、故ニ二十圓ニ云々ノ制限ヲ致シマシテモ、決シテソコニ普通銀行ニ打撃ヲ被ラヌト云フ結果ハ無イノミナラズ、却テ同條ノ第二項中十圓未滿ヲ二十圓ト改ムト云フコトニ修正ヲ致シタイ結果、或ハ普通銀行モ此點ニ於テ多大ナル所ノ便利ヲ逆ニ受ケハシマイカト私ハ信ズル結果、爰ニ此條文ノ修正ヲ提出致シマス、第三條全部ヲ私ハ削除致シマス、政府ガ此第三條ヲ改メテ設ケラレマシテ、爰ニ限定的ニ規定サレマシタ所ノ御趣意ハ、即チ資本ナルモノハ貯蓄銀行ニ於テ信用ヲ維持スルニ、最も大ナルモノデアルト云フ御判斷デアルトハ明カデアリマス、勿論私ハ之ニ對シテ反對ノ意見ヲ持タマセヌ、併シ從來良好ニ發達致シテ居リマス所ノ銀行デアッテ、僅ニ資本金三萬圓或ハ五萬圓ト云フ銀行ガ全國ニ數百行アリマスルガ、色々ノ時局ノ變動ニ際シ、少シモ銀行其者ガ經營ニ於テ誤リヲ致シマセズ、隨テ預金

者三少シモ迷惑ヲ懸ケナカッタ所ノモノハ多大ノ數ニ於テアリマス、然ラバ是ガ即チ資本金ナルモノハ、銀行ノ信用ヲ維持スル上ニ於テ多大ナル力ガアルノデアアルガ、又其所ト及場所ニ於テ自ラ定メラレタ所ノモノデアアテ、而モ資本金ノ大小ナルモノハ、貯蓄銀行ノ信用ノ維持ニ就テ、第一番ノ力アルモノトハ私ハ信ジナイ次第デアリマス、即チ是ガ現在小資本デアアテ完全ニ營業シテ居リマス證據カラ、小資本ト云フモノハ決シテ第一要件ニ置クベキモノデアナイト云フコトヲ私ハ爰ニ斷言ヲ致シマス、又原案ヲ看テ見マスルト、第二十五條ニ於テ資本金ニ關スル金ハ、五箇年間ダケ其儘デ置イテモ宜シト云フ規定ガゴザイマス、然ラバ政府ハ資本金ナルモノハ今直チニ變ヘヌデモ、即チ資本金ナルモノガ今直チニ大ニシナクテモ、決シテ銀行ノ信用ヲ害スルモノデアナイト云フコトヲ、一方ニ於テ私ハ宣明ナサタモノト斷言スル次第デアリマス、故ニ資本金ナルモノハ從來ノ儘ニシテ置キマスシテ、從來銀行ガ經營シテ居ル所ノモノハ、自發的ニ増資キマスル時期ヲ與ヘ、又今後免許ノ申請ヲ申出シタトキニハ、其時ニ政府ガ能ク事情ヲ判斷ナステ御決メニナサテ、毛頭私ハ差支ナイモノト思ヒマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、私ハ此資本金ニ對スル所ノ制限ノ規程ハ削除シタイト思ヒマス、第八條ヲ改メマシテ、貯蓄銀行ハ第一項第一號第二號ノ預金額ノ範圍内ニ於テハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス取引ヲ爲スコトヲ得、ト修正ヲ致シマス、此貯蓄銀行ニ於テ小切手ノ取引ヲスルト云フコトハ、絕對禁止ノ命令法律ヲ私ハ到ル處ニ見マセヌ、故ニ唯々一ニ爰ニ判斷スベキ所ノ基本トシテハ得意先ガ便利デアアルカ否ヤニ依リ判斷スルヨリ外致方ナイト思ヒマス、現在小切手取引ヲ致シテ居リマスノハ、專ラ得意先ノ要求ニ依リテ致スモノデアアテ、決シテ銀行ガ強制シ、若クハ要求スル所ノ取引方法デアアリマセヌ、故ニ預金ノ範圍内ニ於テ此小切手取引方法ヲ許スト云フコトハ、預金者ノ保護ヲ劃一ニスル上ニ於テ、何等少シモノ弊害ガ無イト私ハ論議致シマス、或ハ貯蓄銀行ハ引出スト云フ性質ヨリモ專ラ蓄積スルト云フノ主義デアアルカラ、小切手デア引出スト云フ方法ハ宜シクナイト言ハル、人モアリマセウケレドモ、是ハ勿論得意先ガ引出シマスマイト引出サウト、是ハ自由ノ意思デアアリマシテ、漫リニ其邊ヲ付度致シマシテ、直チニ小切手制度ハ宜クナイト判斷スル所ノ少シモ材料ニハナリマセヌ(「簡單」ト呼フ者アリ)簡單ニ致シマス、(「大ニヤリ給」ト「大ニヤレ」ト呼フ者アリ)第九條ノ「但供託金中受入金額ノ四分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ」云々デアリマス點ヲ「但シ供託金ノ二分ノ一マデ」ハ第十一條第一項第一號ニ云々ト私ハ改正ヲ致シマス、政府ガ今回此原案ヲ提出サレマシタ所ノ御報告ハ、最モ此點ニ於テ力ヲ籠メラレタル所ノモノ

デアリマシテ、私ハ漫リニ此供託制度ニ於テ反對ヲ致シマセヌガ、或ハ斯様ニ峻酷ナル所ノ制限ヲ設ケラレマシタナラバ、營利會社トシテ貯蓄銀行ガ、利益ヲ擧ゲル點ニ於テ如何ニナルカト云フコトヲ私ハ慮レマス、隨テ貯蓄銀行ノ將來ニ於ケル所ノ發達等ニ、非常ナル影響ヲ來スト考ヘマスル結果、之ヲ供託金ノ一分ノ一ト私ハ修正ヲ致シタイト思ヒマス、ミナラズ政府ガ原案ニ於テ許シテアリマス所ノ、有價證券ヲ以テ之ヲ供託スルノデアリマス、ミナラズ價格ノ變動ハ色ミアリマスカラ、此際ニ於テ自由ニ調節スルト云フ必要アルト私ハ認メマス結果、即チ有價證券ノ二分ノ一マデハ、即チ廣クシテ貴ヒタイト云フ私ハ希望デアリマス、同條ノ第二項第一號第一項第三號第四號ノ受入金額中第十一條第一項第四號第五號ノ貸付ヲ爲シタル金額ハ供託金ニ付テハ預金額ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得、ト云フ一項ヲ加ヘマス、是ハ金ヲ預ケタ人ガ金ヲ借リル、即チ是ガ預金者ニ對スル所ノ保障デアゴザイマス、然ラバ爰ニ重複シテ政府ガ預金者ニ安心ヲ與ヘル爲メニ、更メテ供託金ヲ強制スルト云フコトハ私ハ無用ノ事ト思ヒマス、故ニ此點ダケハ私ハ追加ヲ致シタイ、或ハ此條文ヲ許シタナラバ、漫リニ預金者ト結托ヲシテ供託金ノ制限ヲ免レルヤウナ事、即チサウ云フ惡イ事ヲスル者ガアラウト云フ議論ガアルカモ知レマセヌガ、斯ル權威ノ無イ仕事ヲスル銀行デアラナラバ、既ニ貯蓄銀行トシテ存在スベカラザルモノデアアテ、又權威ノ無イ銀行デアリマス、隨テ又斯ル事ヲスベキモノトハ私ハ信ジマセヌ、故ニ此條文ヲ置キマシテモ、決シテ何等ノ弊害ハ無イト私ハハ信ジマス、第十三條第一項中「十分ノ一」ヲ「十分ノ三」ニ改メマス、凡ソ銀行ノ金ヲ貸スト云フコトハ、其當時ノ金融ノ事情、及銀行ノ金銀ノ在、又借入者ノ人格ニ依リテ決定スベキモノデアリマス、故ニ此點ニ於テ政府ガ十分力ヲ用キラレテ、爰ニ十分ノ一ノ制限ヲ置カレタト云フコトハ敢テ反對ハ致シマセヌガ、假リニ例ハ、十萬圓ノ資本金ヲ百萬圓ニ百圓ノ預金ヲ持テ居ル所ノ銀行デアリマシテ、此制限ガ實行セラレ、段ニハ、即チ十萬圓ノ十分ノ一、僅ニ一萬圓ト云フモノダケ外同一人ニ貸セヌト云フコトニナリマス、而モ其預金額ニ於テハ百萬圓ニ百萬圓ト云フ總額ニ上ル、百萬圓ノ「バランス」ヲ持テ居ル二百萬圓ノ「バランス」ヲ持テ居ル者ガ、僅ニ信用アル所ノ一人ニ對シテ一萬圓外貸セヌト云フコトハ、私ハ不徹底至極ト存ジマス、故ニ政府ハ貸金ト云フモノハ、或ハ資本金ヲ自安トシテ貸スモノデアアルト思召カモ知レマセヌガ、私ハ貸金ナルモノハ、「バランス」即チ預金ト資本金トヲ自安トシテ貸スベキモノト云フ趣意カラシテ、「十分ノ三」ニ改メタルデアリマス、第二十二條中「營業稅」ノ次ニ及所得稅」ト云フ四字ヲ加ヘマス、貯蓄銀行ハ

申スマデモナク零碎ナル所ノ預金ヲ吸取致シマシテ、以テ貯蓄獎勵ノ機關トシテ任ズルモノデアリマス、故ニ之ヲ能ク保護シ、以テ獎勵スルト云フコトガ、即チ政府ノ貯蓄ニ對スル所ノ、重大ナル權威アル所ノ事業ノ一ト私ハ考ヘマス、此點ニ於テ政府ハ能ク考ヘラレマシテ、遠ニ營業稅ノ一分ノ一ヲ免ズト云フコトマデナサレマシタガ、私ハ今一歩進シテ、所得稅ノ一分ノ一モ輕減シテ貴ヒタイ、斯ク致シマスルト、銀行經營者ガ利益ヲ擧ゲルト云フ事ノミ、三波々トシテ、自然不誠實ナル營業ヲ爲スト云フコトガ無イミナラズ、又政府モ自ラ恐ラク貯蓄銀行ニ於テ此法律ヲ施行シタナラバ、利益ガ少クナラウト云フ御判斷ノ下ニナサテ居ル此輕減法デアゴザイマスナラバ、即チ利益トシテ所得稅ヲ課セラル、所ノ金額ハ僅カナモノデアゴザイマス、故ニ之ニ對シテ所得稅ヲ免除シテモ、即チ二分ノ一ヲ輕減致シマシテモ、國家ノ財政ニハ殆ド寸毫ノ關係モ無イト私ハ信ジマス、故ニ此所得稅ト云フモノモ加ヘテ、二分ノ一ヲ輕減シテ貴ヒタイト云フ私ノ希望デアゴザイマス、次ニ同條ノ次ニ、貯蓄銀行ノ發行スル預金通帳ニ對シテハ印紙ノ貼用ヲ要セス、此條項ヲ加ヘタイト思ヒマス、是モ略、前ニ申上ゲマシタ通り、即チ何程カ營業上ノ利益ガ薄クナル、故ニ此點ヲ緩クサレテモ、決シテ預金者ニ對スル所ノ保護ノ上ニ、何等關係ガ無イト云フ立場カラ、是ハ是非斯ウシテ貴ヒタイト云フ私ノ主張デアゴザイマス、ミナラズ、僅ニ二十錢ト云フ預金ノ通帳ニ對シテマデモ三錢ナルモノハ、即チ多大ナル重稅デアルト云フ私ノ見地カラ、爰ニ之ヲ加ヘマシタ、以上述べマシタ通りガ、私ガ爰ニ修正ヲ提出致シマシタ意見ノ大體デアゴザイマス、ドウカ...

○議長(奧繁三郎君) 紫安新九郎君

(紫安新九郎君登壇、拍手起ル)

○紫安新九郎君 諸君、本員モ貯蓄銀行法案ニ對シテ修正ノ意見ヲ述ベントスルモノデアリマス、乃チ第八條ヲ左ノ如ク改ム、貯蓄銀行ハ第一條第一項第一號第二號ノ預金額ノ範圍内ニ於テ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス取引ヲ爲スコトヲ得、第九條ノ但書中ニ「供託金四分ノ一」トアルノヲ「二分ノ一マデ」ニ改ム、更ニ同條第二號ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ、第一條第一項第三號第四號ノ受入金額中第十一條第一項第四號第五號ノ貸付ヲ爲シタル金額ハ供託金ニ付テハ預金額ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得、是ガ私ノ修正セントスル箇條デアリマス、此貯蓄銀行法案ハ大體ニ於キマシテハ、私共ハ最モ宜シキヲ得タルモノデアアルト贊成スルニ吝ナラヌモノデアリマス、併ナガラ今私が申上ゲタル修正ヲ加フルモ亦其宜シキヲ得タルモノデアアルト云フノ考カラ致シマシテ、此修正案ヲ提出シタル次第デアゴザイマス、何卒御贊

成アラシコトヲ望ミマス(拍手起ル)
○議長(奥繁三郎君) 海江田準一郎君

〔海江田準一郎君登壇、拍手起ル〕

○海江田準一郎君 此貯蓄銀行法案ニ對シマシテ賛成スル者デゴザイマス、而シテ只今納富陳平君及紫安新九郎君ノ修正案ニ對シテハ、遺憾ナガラ同意シ難イノデアリマス、此銀行貯蓄案ガ出マシタ當時、當事者及世間ニ於キマシテハ、多少ノ非難ガアッタノデゴザイマス、(銀行貯蓄デハナイ貯蓄銀行)ト呼フ者アリ、宜シイソレハドウ云フ非難カト申シマス、今回ノ改正案ハ峻嶮其度ニ過ギテ居ル、仍テ營業ハ立行カナイト云フヤウナ非難デアアルノデゴザイマス、併シ此貯蓄銀行ト云フモノ、本質ヲ能ク考ヘテ見マス、貯蓄銀行ナルモノハ、公共的且ツ慈善的ノ性質ヲ帶ビマシテ、一面ニハ國民ノ貯蓄心ヲ獎勵スルモノナラウト思フノデゴザイマス、且又此貯蓄銀行ナルモノハ、世ノ所謂富豪或ハ特殊ノ人士ガ、社會奉仕ノ信念ノ下ニ、社會政策トシテ多數階級ノ生活ノ安全ヲ保持スルト云フヤウナコトモ、私ハ目的ノ一ツデハナイカト思フノデゴザイマス、左コレバ此貯蓄銀行ナルモノニ嚴格ナル制限ヲ加ヘルト云フコトハ、最モ其策ヲ得タルモノト私ハ信ズルノデゴザイマス、先程申上テマシタル非難ハ、只今マデ行テ來マシタ所謂現行法、之ニ慣レ來テ者トシテハ、或ハ非難ノ聲ヲ揚ゲルノモ御尤カトモ存ジマス、併ナガラ此貯蓄銀行ノ本質ヨリ之ヲ考ヘテ見マス、強チ私ハ峻嶮ナル、且ツ苛酷ナル制限デハナイト思フノデゴザイマス、殊ニ此貯蓄銀行ナルモノハ、多數階級ガ粒々辛苦ノ上貯メタ金ヲ預ケル所デゴザイマス、故ニ貯蓄銀行ノ經營如何ト云フコトハ、延テ此下級所謂細民ノ生活ニ不安ヲ與ヘ、延テハ思想界ニ影響スルモノダラウト思フノデゴザイマス、御承知ノ通り數年前——デハナイ先年來經濟界ノ好景氣ニ伴レマシテ、色々此銀行ガ放漫ナル貸出ヲシタノデゴザイマス、昨年ノ不況ニ遭遇シマスルヤ、多數ノ銀行ガ破綻シ、或ハ取付ニ遭ヒ、其中貯蓄銀行ニ於テモ、支拂停止ヲシタノモアルノデゴザイマス、其結果ハ預金者ニ悲惨ナル影響ヲ與ヘ、一家ノ離散トナリ、或ハ狂人モ出來、或ハ自殺ヲシタ實例モアルノデゴザイマス、斯ル事ヨリ考ヘマス、此貯蓄銀行ナルモノハ社會政策ノ上ニ於キマシテモ、私ハ今日ノ如キ改正案ノ嚴格ナル制限ヲ加ヘルコトヲ、至當ナリト信ズルノデゴザイマス、先程納富陳平君ノ修正ノ御演說ヲ拜聽シテ居リマシタガ、私ハマダ年ヲ取ツテ居ナイノデゴザイマス、ドウモ其御説明ガ徹底的ニ私ニ了解出來ナカッタデアリマス、(何ヲ言フテ居ルノ)ト呼フ者アリ、併ナガラ大體ニ於キマシテハ、先程委員長ノ御速ニナリマシタ反對論所謂此修正案ナルモノハ、

私共委員會ニ於キマシテ、上田案ト申シテ居ルノデゴザイマス、此上田案其物デアッタノデアリマス、仍テ其修正ニ同意シ難イ所ノ反駁ハ、先程ノ委員長ノ御速ニナリマシタル所ノ反對論ト御承知ヲ願ヒタウデゴザイマス、紫安サンノ極ク簡單デゴザイマシタガ、矢張此中ニ包含セラレ得ルモノト御承知下サイマシテ原案ニ御賛成、而シテ此修正案ニ不賛成シ下サラシコトヲ希望致シマス(拍手起ル)「ドウシタイト呼フ者アリ」少シ私ガ「ヤリ直シマスガ、原案賛成ニ御願シタウデゴザイマス(拍手起ル)」

○議長(奥繁三郎君) 採決致シマス、納富君ノ修正案中ニハ紫安君ノ修正案ト同一ノ點ガアリマス、先ヅ其共通ノ點ヲ採決シマス、次デ共通ノ點ヲ除キマシタ部分ノ、納富君ノ修正ニ就テ採決致シマス、共通ノ點ハ即チ第八條第九條中ノ但書、及同條ニ一項ヲ加フルト云フ點デアリマス、右ハ同一ノ點デアリマス、同同時ニ採決シマス、只今宣言致シタル點、此修正ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕
○議長(奥繁三郎君) 少數

〔多數ト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 少數——仍テ修正案ハ否決サレマシタ、次ニ同一ノ點ヲ除キマシタ、今否決ノ點ヲ除キマシタ其以外ノ納富君ノ案ニ就テ採決致シマス、其修正ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕
○議長(奥繁三郎君) 起立少數、仍テ此點モ否決サレマシタ——委員長ノ報告、即チ原案ニ就テ採決ヲシマス、委員長ノ報告ニ御異議アリマセスカ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ委員長報告通り決シマシタ、(拍手起ル)是ニテ第二讀會ハ終リマシタ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○岩崎勳君 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開キ、第二讀會議決ノ通り可決確定アラシコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ガ無イト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開キマス

貯蓄銀行法案 第三讀會
銀行條例中改正法律案 第三讀會
〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ガナケレバ、第二讀會議決ノ通り可決確定致シマシタ——小橋君、議事ノ進行ニ就テ發言ヲ求メラレマシタガ、此際デスカ

○小橋藻三衛君 此際……

〔小橋藻三衛君登壇、拍手起ル〕
〔小橋藻三衛君〕 小橋君

〔小橋藻三衛君〕 小橋君

○議長(奥繁三郎君) 靜……

○小橋藻三衛君 議長ハ議場ヲ整理スルガ爲メニ、或程度ノ特權ヲ有テ居ルト云フコトハ、議院法ノ認ムル所デアリマス、吾々議員ハ此議長ノ特權ニ對シテハ敬意ヲ拂ッテ、之ニ服從スベキハ勿論デアリマス、併ナガラ若シ議長ガ此特權ヲ超過シテ、或侮辱ヲ議員ニ加ヘ、議員ノ言論ノ自由ヲ壓迫スルト云フコトガアッタラバ吾々ハ決シテ之ニ服從スルコトハ出來ナイデアリマス、(ヒヤ)「拍手起ル」近來奧議長ガ出來得ル限リノ公平ナル態度ヲ執ラントセラル、努力ニ對シテハ、吾々ハ之ヲ認メル、吾々ハ之ニ對シテ多大ノ敬意ヲ拂ッテ居ルデアリマス、然ルニ遺憾ナル事ニハ、昨日ノ追加豫算討論中、植原君ノ演說ニ對シテ、甚ダ議長ハ不都合ナル壓迫ヲ加ヘラレタノデアリマス、(ノウ)「ト呼フ者アリ」ノウ「ニ非ス、議場ノ神聖ノ爲メニ本員ハ發言ヲ致シテ居ルデアリマス、黨派ノ問題デハナイ、御鎮マリナサイ、(何ヲ言フ)ソナ事ハ分ツテ居ル」默テ聽クト呼フ者アリ)速記録ヲ取調ベテ見ルト云フト、斯様ナ言葉ヲ發セラレテ居ルデアリマス、議長議場ノ諸君モ靜肅ニ願ヒマス、ケレドモ演說サレル人モ、自分ガ一人物ヲ知テ、滿場ノ人ガ知ラヌガ如キ言葉ハ御慎ミナサイ……

○議長(奥繁三郎君) 靜……

○小橋藻三衛君(續) 植原君私ハサウ云フ言葉ハ申シマセス、若シサウ言フコトナラ、速記録ヲ御覽ヲ願ヒマス、私ノ言葉ニ不都合アリト云フナラ、速記録ヲ調ヘテ後ニナサイ、議長「速記録ヲ見ナクテモ私ノ耳ニサウ聞エタカラ御注意ヲ致スノデアリマス、(其通り)ト呼フ者アリ)斯様ナ事ガ記サレテアルノデアリマス、(何カ間違テ居ル)其通りト呼フ者アリ)元來此議場ニ於テ、政府ノ經綸ニ對シ、政府豫算ニ對シテ熱心ニ討論スルト云フ場合ニ於テ、或ハ經綸ナシトカ、或ハ無能デアルトカト云フガ如キ言葉ハ屬ニ繰返サレ、又當局ノ大臣モ、或時ニハ知ラナケレバ教ヘテ上ダルト云フガ如キ言葉ヲ使ハレタリ、或ハ賣言葉ニ買言葉デアルト云フヤウナ言葉ヲ發セラレタト云フコトハ、從來度、アルノ

諒解アラシキコトヲ望ミマス、日程第三公有水面埋立法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長小山田信藏君

第三 公有水面埋立法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告書)

報告書

一 公有水面埋立法案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也 大正十年三月八日 公有水面埋立法案委員長 小山田信藏

衆議院議長與繁三郎殿 (小字ハ委員會ノ修正)

公有水面埋立法案中左ノ通修正ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ノ區劃シ永久ノ設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス (小山田信藏君登壇、拍手起ル)

小山田信藏君 只今議題トナリ報告シテ公有水面埋立法案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ四十九條ヨリ成立シテ居リマス法案デアリマシテ、委員會ハ四回之ヲ開キマシテ、各派ノ委員諸君ヨリ幾多ノ質問ガアリマス、又之ニ對シテ政府委員ノ答辯モアリマシタ、其中ノ主ナルモノハ二三ヲ簡單ニ申上ゲヤウト思ヒマス、第一ハ憲政會ノ高木正年君ヨリ東京府ノ如キ漁業權ノ設定ヲ認可セザル場所ニ於テ、又一面ヨリ申シマスレバ、一種ノ天然ノ養魚池トモ申スベキ場所ヲ埋立スルト云フコトニナリマスレバ、幾多ノ住民ガ生活ヲ失フヤウナコトニナル、サウスレバ社會政策上由々シキ問題ヲ惹起スノデ、之ヲ防グニハ同法案第三條ノ「市町村會ノ意見ヲ徵シ」ト云フ所ニ漁業組合ノ意見ヲ徵スルト云フコトヲ入レテ貴ヒタイ、サウスレバ是等ノ生活ノ安定ヲ失フコトヲ防グコトガ出來ル、斯ウ云フ譯デアリマス(聞エマセウカモトト大キイ聲ヲ願ヒマスト下呼フ者アリ)之ニ對シマシテ政府委員ハ、漁業權者ハ本法ニ依テ其損害ノ補償ヲ受ケルコトガ出來ルノデアルカラ、又高木君ノ言ハル、多數人民ノ生活ヲ奪フヤウナ場合ハ、政府ハ埋立ヲ認可シナイノデアアル、即チ埋立處分手續ノ第三、其理立ガ公益其他ニ支障アリト認ムルトキハ地方長官ハ不許可ノ處分ヲ爲ス、斯ウ云フコトニモナッテ居ルノデアリマスカラシテ、(モウ少シ高聲ニ願ヒマス)下呼フ者アリ、詰リサウ云フ場所ニハ絕對ニ埋立ヲ許サヌ、ソレカラ是等ハ尙及將來訓令ナリ省令ナリヲ以テ注意スル積リテアルト、次ニハ淺野君南君ヨリ第十四條ノ本文ノ末ニ於テ、

○議長(與繁三郎君) マダ許シテ居リマセヌ——議事ノ進行ニ就テマスカ

○小橋藻三衛君 只今申シタ通り

○議長(與繁三郎君) 申シタ通り——議事ノ進行デスカ (議事ノ妨グダ) 止セムト下呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 靜ニナサイ

○小橋藻三衛君 議事ノ進行ニ就テアリマス

○議長(與繁三郎君) 許シマス

○小橋藻三衛君登壇、拍手起ル

○小橋藻三衛君 私ハ只今ノ議長ノ御答辯ヲ承テ意外ニ感ズルノデアリマス、吾々ハ議事ノ進行ノ爲メニ、更ニ一言ヲ費サマルヲ得ナイ

○議長(與繁三郎君) 無用々々ト下呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 靜ニ……

○小橋藻三衛君(續) 議長ハ只今左様ナ場合ニ於テハ、今後モ警告ヲ發スルト云フ御言葉デアリマス、是ハ甚ダ怪シカラヌ事デアアル、(何デト下呼フ者アリ)植原君ノ申シタ事ハ決シテ自分一人ガ物ヲ知ラズ、滿場ノ人ガ知ラナイト云フタノデハ、當時ノ議場ノ光景ハ諸君ノ御承知ノ通り、植原君ガ帝黨會社ノ事ニ就テ、大ニ將來ヲ注意シナケレバナラヌト云フ點ニ對シテ、警告ノ演説ヲ致シテ居ッタノデアアル、所ガ議長ハ之ニ對シテ、憲政會ト同一ヤウナ意味ノ事デハナイカト云フコトモ言ハレタノデアアル、又政友會ノ諸君ハ頻リニ植原君ノ演説ニ對シテ妨害ヲサレタノデアリマス、極端ナル妨害、極端ナル壓迫ヲ加ヘラレタノデアリマス、極端ナル光景ガ爲メニ、植原君ノ論旨モ一層強クナッタト云フコトハ、當時ノ光景ガ自ラ之ヲ然ラシメタノデアアル、然ラバ則チ植原君ノ斯ル演説ヲシタト云フコトニ對シテハ、與黨諸君モ亦其責任ガアルノデアアル(拍手起ル、ノウ)然ルニ議長ハ斯ノ加ク議員ノ言論ヲ批評ヲ致サレテ、サウシテ之ヲ壓迫サレルト云フコトハ一種ノ侮辱デアリマス、(拍手起ル、牽強附會)ト下呼フ者アリ、吾々ハ何所マデモ與議長ガ冷靜ニ考慮致サレテ、大ニ自ラ省ミテ、其態度ヲ改メラレンコトヲ更ニ警告スルモノデアリマス(拍手起ル、答辯ノ要ナシト下呼フ者アリ)

○議長(與繁三郎君) 諸君、靜ニ——モウ先ニ答ヘタノデ十分ト思ヒマスルガ、併シ誤解ガアッテハイケマセヌカラ尙ホ一言シマス、私ハ植原君ノ演説ノ論旨ヲ妨害シタルモノデナイ、(批評シタ)下呼フ者アリ、如何ニモ經濟ノ原則ハ諸君ハ分ラヌダラウトカ、蠶絲業ハ日本ノ重要ナル事業デアアルト云フコトヲ、御承知デナイト云フ言葉ヲ發セラレテ、偶、議場ガ騒然トナツタカラ、左様ナ動機ヲ作ラナイヤウニナサイト云フテ注意シタノデアリマス、(拍手起リ發言スル者アリ)諸君ノ

デアアル、併ナガラ何レモ熱心ニ國事ヲ議スルノ餘リ、覺エズ知ラズ即チ言論ノ逆リカラ、斯様ナコトガ出來致スノデアアル、斯様ナ言葉ニ對シテ、未タ會テ議長ハ之ニ警告シ、壓迫セラレタト云フ事柄ハ無イノデアリマス、昨日植原君ノ演説ハ是等ノ事ニ較べルト、甚ダ輕微ナルモノデアアル、然ルニ議長ハ斯様ナ自分一人デ物ヲ知ラズ、滿場ノ人ガ知ラヌガ如キコトヲ論ズルナト云フコトマデ言ハレルト云フコトハ、議長ニ許サレタル議場整理ノ特權ヲ超過シタル一種ノ壓迫デアリマス、(拍手起ル、ノウ)下呼フ者アリ、決シテ此問題ハ黨派ノ問題デハナイ、御靜マリナサイ、議員ノ名譽ニ關シテ言論ノ自由ニ關スル言葉デアアルガ故ニ、將來斯ノ如キ事ハ、屹度御謹慎アッテ然ルベシト云フ警告ヲ與ヘルノデアリマス、私ハ與議長ノ紳士ナルコトヲ信ズルガ故ニ、紳士ハ過テ改ムルニ決シテ者ナルモノデハナイ、與議長ハ蓋シ本員ノ警告ニ對シテ、速ニ服従サル、モノト信ズル、(大間違)ト下呼フ者アリ、故ニ本員ノ警告ハ此ニ止メル、若シ此警告ニ服従サレナイト云フナラバ、更ニ幾許カノ時間ヲ借用シテ、本員ハ大ニ警告セントスルモノデアアル、(拍手起リ發言スル者多シ)

○議長(與繁三郎君) 御答致シマス、小橋君ノ折角ノ御注意御深切ノ御注意デゴザイマスルガ、昨日ノ如キ場合デアアルナラバ、其人ニ注意ハ相變ラズ議長ハ加ヘマス、其理由ヲ御答致シマス、昨日植原君ノ演説中ニ「諸君御分リデアアルナラバ、蠶絲業ハ日本ノ國民ニ於テ最も重大ナル事業デアリマス、(其通り)下呼フ者アリ」蠶絲業ガ重大ナル事業ト云フコトヲ諸君ガ御分リナリマスカト云フヤウナ意味ノ言葉デアリマス、ソレカラ續イテ「諸君ガ御分リナリマシテモ、此場合私ハ其事ヲ……蠶絲業ガ日本ノ重大ナル事業デアリマス、之ガ御分リナリマセヌカ、御分リナリマシテモ私ハ言ヒマス」ト云フ言葉デアリマス、故ニ議場ガ騒然トシマシタ、其時分ニ私ハ注意ヲ加ヘント欲シマシタガ、偶、其一言ダケデシタカラ注意ヲ加ヘナイア經過シマシタ、サウシタラ續イテ暫クシテ、「諸君ガ經濟ノ原則ヲ御承知ナラバ」ト云フ言葉ガ出マシテ、又議場ハ騒然トシマシタ、是ニ於テ議場整理上騒然トサレタル諸君ニモ警告ヲ與ヘ、演説サレル方モ、ソレシキノ事ガ皆サンニ分ラナイカト云フ御言葉ヲ御使シナシタ、是ハ當然ノ注意ト信ジマス、(拍手起ル、當然)ノウノ下呼フ者アリ

○小橋藻三衛君 議長——議長 (無用々々)下呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 靜ニ……

○小橋藻三衛君 議事ノ進行ニ就テ——許シマスカ

「他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ他ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得」ダケデハ、本案ノ趣旨ヲ貫徹スルコトガ出來ナイノデ、即チ埋立ノ如キハ最モ重キ土砂ヲ必要トスルカラ、是等ヲ運搬スル道路ヲモ、本法ヲ以テ通行シ得ルヤウニシナケレバナラス、折角本法ガ發布サレテモ其效力ヲ發揮シ得ナイ故ニ、「運搬シ得ル」ト云フ文字ヲ入レテ貴ヒタイ、斯ウ云フ質問的ノ意見ガアタノデアリマス、政府委員ハ之ニ對シマシテ、諸君ノ意見ハ諒トスルモ、個人住宅ノ庭園若クハ料理屋ノ庭ト云フヤウナ所ニ「レール」ヲ敷設シテ、其前ヲドシト「通行スルヤウニナルト、餘リ個人ノ權利ヲ侵害スルヤウナコト」ニナリマシテ、條文デ之ヲ入レルト云フコトハ面白クナイ、サリナガラ差支ナイ場所ニ於テハ、地方長官ガ訓令カ何カヲ以テユトリテ取レルヤウナ方法ヲ講ズル、斯ウ云フ答辯デアリマス、第三ハ養魚場並ニ船渠等ニ對スル質問デアリマス、是ハ吉原祐太郎君、高柳覺太郎君、其他ノ諸君ヨリ多數ノ質問ガアリマシタ、其要旨ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ、養魚場ハ埋立ニ非ズ干拓ニ非ズ、本法ニ於テ其所有權ヲ認メ得ルヤ否ヤ、斯ウ云フノガ大體ノ御質問デアリマス、之ニ對シマシテ政府委員ハ、本法ヲ以テ直チニ其所有權ヲ認ムルコトハ六ヶケシ、サリナガラ其設備ノ如何ニ依テハ認メナイコトモナイガ、要スルニ本文ハ「目下政府ニ於テモ考慮研究中デアル、斯ウ云フ風ナ答辯デアリマシタ、尤モ高木正年君ヨリノ請求ニ依リマシテ、水産局長ノ出席ヲ乞ヒマシテ、吉原君ヨリ水産局長ニ向ッテ、養魚場ノ所有權ノ質問ガアリマシタ、水産局長ハ之ニ對シマシテ、本案ニ於テ其所有權ヲ認メテ貴ハ大變都合ガ好イ、斯様ニ答辯ガアリマシタ、又小橋内務次官カ、本案ニ就テハ水産局ト相談シテ考慮中デアルケレドモ、諸君ニ於テ本案中ニ其等ノ規定ヲ入レタイト云フコトナラバ敢テ拒マヌ、斯ウ云フ風ナコトデアリマシタカラ、委員會ニ於テハ、各派委員ガ相談會ヲ開キマシテ、政府ノ同意ヲ得テ一ツノ成案ヲ得タノデアリマス、即チ「本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水而ノ一部ヲ區劃シ永久ノ設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス」即チ之ニ依ッテ、養魚場並ニ船渠ノ如キモノ、所有權ヲ認メラレコトニナリマス、而シテ本條ハ本案ノ一番末尾ニ五十條トシテ加ヘルコトニ致シマシテ、詰リ各派協議ノ委員會ニ於ケル修正提案トナツノデアリマス、委員會ハ討論ニ移リマシテ、其各派修正ノ提案並ニ原案ニ對シマシテ、滿場一致デ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス、(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス
 「第二讀會ヲ開クニ異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
 ○岩崎勳君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り、即チ委員會ニ於テ修正議決ノ通り可決確定セラレンコトヲ希望致シマス
 「贊成々々」ト呼フ者アリ
 ○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ
 ○議長(奥繁三郎君) 御異議ガ無クレバ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

公有水面埋立法案 第二讀會(確定議)
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ
 ○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ委員長報告ノ通り可決確定致シマス
 ○岩崎勳君 議事日程變更ニ關スル緊急勅諭ヲ提出致シマス、即チ茲ニ特第一號大正十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案ヲ議題ト爲シ、豫算委員長ノ報告ヲ求メ、且其審議ヲ進メラレンコトヲ希望致シマス
 「贊成」ト呼フ者アリ
 ○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ
 ○議長(奥繁三郎君) 御異議ガ無イト認メマス、仍テ日程ハ變更サレマシタ、特第一號大正十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案ヲ議題ニ供シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、武藤金吉君

(特第一號)大正十年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
 報告書
 (委員長)

五千四百三十八圓、農商務所管ニ於キマシテハ、米穀需給調節四百九十七萬六千三十五圓デアリマス、是ガ歳入八國債整理基金ノ收入、米穀需給調節特別會計ヨリ受入レルコトデアリマス、又歳出ハ此國債整理基金カラ支出ラヌルノデ、是ガ國債整理基金ノ歳入歳出デアリマス、又農商務省ノ方ノ米穀需給調節ノ收入ハ、米穀需給調節カラ收入ヲ得マシテ、是ハ借入金デアリマス、此借入金ハ四百九十六萬三千三百四十四圓デアリマス、其他雜收入一萬五千圓、是ガ歳入歳出ノ金額デアリマス、本案ニ對シテ政府ノ説明ハ、米穀ノ需給調節借入金ノ利子、及ヒ國債ノ雜費等ノ増加ニ伴フ案デアリマシテ、此經費支辨ノ爲メニ借入金ヲ爲シ、是ガ利子ヲ要スルト、及米穀買入ノ爲メニ發行スル證券ノ製造費デアアルデアリマス、又米穀法ノ發布ニ伴ッテ、米穀ノ需給ヲスルノ必要ガアツテ、是ガ經費ヲ見積ツタモノデアリマス、之ニ對シテ委員會ニ於キマシテハ、極メテ簡單ナル質問應答ガアリマシタ、其要點ノ一二ヲ申上ゲマスレバ、買入ノ場所、全國ノ倉庫ノ數ハ如何米穀ノ收容量ハドウデアアルカ、又豫備金ヲ置イテ、此案デアルト、十年度ニ於テ豫備金ヲ置カナイト云フト、支障ヲ生ズルノ虞ガアルカラモ、豫備金ヲ置イテ、彈力ノアル支出ヲ何故シナイカト云フ質問ガアリマシタ之ニ對シマシテハ政府ハ、買入ノ箇所ハマダ何所ニ置クト云フコトハ定メテナイガ、全國ニ代表的場所ヲ七箇所選ム積リデアアル、又倉庫ノ收容量ハ、東京ヲ首メ全國ノ十三大都市ニ、二百七十萬石ノ收容量ガアル米ヲ容ル、ニ足ルベキ倉庫ガアル、其以外ニ農業倉庫等ガ六十萬石ヲ收容量スルモノガアル、斯ウ云フ答辯デアリマス、又此豫備費ヲ置カナイト云フコトニ就キマシテハ、豫算ノ範圍ニ於テ流用シ、又繼續的ニ是ガ資本ヲ運用シテ買入ヲ爲スト云フコトデアアル、是ガ質問應答ノ要旨デアリマス、斯様ニ致シマシテ、委員會ハ本日午前二開キマシテ分科會ニ移サヌ、直チニ討論ニ移リマシテ、滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、此段御報告ニ及ヒマス(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
 「贊成」ト呼フ者アリ
 ○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス
 「第二讀會ヲ開クニ異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス
 「第二讀會ヲ開クニ異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス
 「第二讀會ヲ開クニ異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ、日程第四國有土地森林原野下辰ニ關スル法律案第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長缺席ニ付、理事日野辰次君ヨリ説明ヲ求メマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

第四 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律

律案(戶狩權之助君外八十六名提出)

(第一讀會ノ續)(委員長)

報告書

一 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案(戶狩權之助君外八十六名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月二日

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案

委員長 戶狩權之助

衆議院議長奧繁三郎殿

(日野辰次君登壇、拍手)

○日野辰次君 委員長 戶狩權之助君御缺席デアリマス、私ヨリ代テ本案ノ委員會ノ經過ニ就テ報告致シマス、此國有土地森林原野下戻法ニ關スル法律案ハ、御承知ノ通り各派ヲ通ジテ、二百五十八名ノ多數議員諸君ニ依テ提出サレテ居ルデアリマス、之ニ依テモ本案ガ國民多數ノ利害關係ノ上ニ、頗ル大ナルモノガアルト云フコトガ相分ルデアリマス、特ニ又諸君ノ御記憶ヲ願フテ置キタイ事ハ、是マデ、本案ト同一ノ法律案、即チ下戻申請期間ノ延長スベキ法律案ガ、度々此衆議院ニ提出サレテ居ルデアリマス、而シテ其度毎ニ通過シテ居ルデアリマス、又政府モ一度ハ之ニ同意ヲ表シテ居ラル、デアリマス、斯ル歴史ヲ有スル法律案デアリマス、事理至リテ明瞭ナルモノデアリマス、故ニ、本案ノ委員會ハ僅カ一回ニシテ終了致シマス、委員會ニ於キマシテハ、先ツ宮古啓三郎君ヨリ詳細提案ノ理由御説明ガアリマス、又他ノ委員諸君ヨリハ、代々各地方ニ於ケル森林原野對人民ノ狀況ヲ詳シク御述ニナリマシテ何レモ切ニ政府ノ同意ヲ求メラレタノデアリマス、委員會ノ御所論ノ大要ヲ爰ニ播擲シテ申上ゲマス、此誤テ官有ニ編入セラレマシタ森林原野ニ對シテ下戻ノ申請ヲ爲シ得ル期間ガ、明治三十二年ノ四月ニ發布ニナリマシタ國有土地森林原野下戻法ニ依テ、明治三十三年六月三十日マデト限ラレタノデアリマス、此期限内ニ種々事情ノ爲メニ、下戻ノ申請ヲ爲シ得ザリシ者モアツタ、又假令申請ヲシマシテモ、行政訴訟ノ途アルヲ知ラズシテ、空シク此期間ヲ逸シタルモノモ頗ル多ク、デアリマス、是等ハ其後ニ至リテ下戻申請ヲ爲サント欲シテモ、之ヲ行フノ餘地ナク、不滿ノ念怨嗟ノ聲ハ、日ヲ經ルニ從テ高マテ來テ、殊ニ近頃ノ如ク生活不安ヲ感ズルコトガ甚シキニ至リマシテハ、此不滿ノ念怨嗟ノ聲ハ、益々其度ヲ高メ來リ、動モスルト穩カナラザル

行動ガ各地ニ續出スルヲ見ルノデアアル、斯ノ如キハ誠ニ國家ノ爲メニ寒心ニ堪ヘナイノデアアル、元來民有ニ爲スベキモノヲ誤テ官有ニ編入サレタモノガアルナラバ、是ハ當然國家ガ舊所有者ニ返付スベキモノデアアル、故ニ本案ノ如キ法律ヲ制定シテ救済ノ途ヲ講ズルコトハ、當然國家ガ執ルベキ途デアルト云フコトニナラナク、デアリマス、委員會ハ別ニ討議ヲ用井マセズ、直チニ本案ヲ滿場一致可決致シテ次第デアリマス、ドウカ本院ニ於テモ、速ニ御審議ノ上可決アラシコトヲ希望スル次第デアリマス

○議長(奧繁三郎君) 本案ニ就テハ何レモ贊成デアリマス、スケレドモ、討論ノ通告ガアリマスカラ、順序ニ依テ之ヲ許シマス、中野寅吉君

(中野寅吉君登壇、拍手)

○中野寅吉君 原稿ハ長クテモ、話ハ簡單ニ致シマス、(拍手)此問題ハ衆議院ハ勿論、貴族院モ滿場一致通過スルト思ヒ居リマスガ、遺憾ナガラ政府ノ意嚮ガ只今不明デアアル、政府ノ意嚮ガ不明ナラハ、此問題ニ對スル、民間ノ實情ノ御解リニナラナイ點ガアル爲メ、デアラウト思フノデアリマス、田中次官ナゾハ山ノ中カラ出ラレタ人デアアルガ、多クハ東京ニ御住居ニナテ居ルノデ、所謂長袖寬帶ノ人ニ日ニ一御交リニナテ居ル爲メニ、田舎長イ事ハ御忘レニナツタカ知レマセヌガ、少シ許リ實情ヲ申上ゲル、此問題ハ洵ニ簡單明瞭デアアル、元々民有若クハ部落有デアツタ土地ヲ返セト云フノデアアル、甚ダ簡單明瞭デアアル、所ガ返ス方法ニ就テ、今迄ハ政府ガ四ノ五ノ言テ居ル、所謂三百代言ノ態度ヲ以テ、期間ガ經過シタカラ返セナイノ何ノ彼ノト云フヤウナ、即チ輿論ニ耳ヲ假サナイヤウナ傾ガアル、之ガ爲メニ百姓ハ非常ニ困ツテ居ル、何ハ春ノ夢ヲ見テ、財布ヲ捨テ夢ヲ見テ明朝其夢ガ覺メタ時ニ至リ、好イ氣持シナイデナイカ、然ルニ元々民地若クハ部落有デアツタモノヲ取上ゲラレテサウシテ、ソレヲ今以テ返サレナイト云フヤウナ、サウ云フ語ヲナイ話ハ無い、一ノ谷ノ熊谷デナイケレドモ返セ戻セ戻セ聲ガ盛ニナルノハ當前デアリマス、是ハ當前デアアル、大正ノ敗盛ト目スベキ所ノ山本農商務大臣ハ、全く引返サダケノ勇氣アリヤ否ヤ、確ニアルト思フ、アルト思フカラ、衆議院ハ滿場一致之ヲ通過サセテ貰ヒタイ、サウスレハ必ズ通過スルデアラウト思フ、ソレカラ政府ノ方モ通過スルデアラウト思フ(笑聲起ル)私ハ言葉ハ分ラナイ、衆議院モ通過ト思フ、政府デ言フコトヲ肯クコトモ通過ト思フノデアアル、ソレレ山ニ住ム者ハ山ヲ以テ生活スル、是ハ當前デアアル、海ニ住ム者ハ海ヲ以テ生活スルノガ是ハ當前デアアル、鹽ヲ製スルトカ、或ハ魚ヲ捕ルトカ、所ガ山ニ住ンデ伐ル木一本モ無いデハ、甚ダ是ハ氣ノ毒ノ次第デアアル、此問題ニ就テハ非常ニ困ツテ居ル、ソレカラモウ一ツハ斯ウ云

フモノヲ早ク返スト云フコトハ、非常ニ政府デハ惜ガテ居ルカ知ラヌガ、是ハ愛林ノ思想カラ云ウテモ早ク返シタ方ガ宜イ、林ヲ愛スル思想カラ言フテ、今ノ返サナイ官林ハ、大抵ハ皆ナ人民ガ惡戯スル、役人ガ一年ヤ半年其所ニ行テ實際ノ容子ハ分ルモノデアナイ、其土地ニ長ク住ンデ居テ元ト自分ノ物デアツタ、元ト部落ノ物デアツタト云フ關係カラシテ、其地味ヲ能ク知テ居ル、地味ニ應ジテ其土地ヲ利用スル、即チ子ヲ觀ル親ニ如カズデアアル、官行作業ヤヤテ居ル、今大林區署官行事業ヤヤテ居ル、官行行事業ト書クサウダコソナ事ハ失敗バカリデアアル、炭ヲ燒イタリ薪ヲ出シタリヤテ居ル、「スリッパ」チドヲ出シテ見ル、皆ナ失敗ダラケデアアル、所謂士族ノ商法デアアル、斯ウ云フ事ヲスルヨリハ、矢張其土地ニ通ジテ居ル所ノ者ニヤラシタ方ガ宜シイ、早ク土地ヲ返シテ、又失敗スルモ當前デアアル、ソレニハ百姓ノ怨ト云フモノガ籠テ居ル(拍手「ヒヤ」)ソレカラ今度ハ林ノ前ニ制札ヲ立テ、居ル、官林ニ行テ見ルト、林ヲ大切ニシロ、イヤ火ヲ入レルナトカ、又濫リニ入レルナトカ、麗々シイ制札ヲ立テ、居ル、盜伐モアレバ火事モ大ニアル、民有地ニハ制札モ何モ無いガ火事ナドハハチトモ無い、皆ナ此怨ノ爲メニ火ヲ點ケラレル、怨ノ爲メニ泥棒ヲサレルノデアアル、ソレカラ此林ニ對スル所ノ今ノ遣方ハ、所謂官本位デアアル、民本位デアナイ、民本位「私ハ餘リ慣レナイ言葉デアアル、此頃能ク流行ツテ來タ「デモクラシー」デアアル、林ノ經營モ此「デモクラシー」ニヤレバ宜シイ、此話ハ僕ハ甚ダ得手デアナイ、得手デアイカラ餘リ繰返サナイガ、官本位デアツテ居ル爲メニ失敗ガ多イ、諸君モ御承知ノ通り、朝鮮ニハ嶺山秃峰、即チ私ノ頭ノヤウナ山ガ澤山アル、到ル處嶺山秃峰デアアル、朝鮮ハ何故斯ウナト云フト、官本位ガ祟ヲシテ居ル、昔江原道ト云フ所ハ非常ニ大森林デアツタ、「長イ」ト呼フ者アリ」モット簡單ニシマス、此江原道ハ大森林デアツタ、伐出シタモンダカラ、此景福宮ノ建築ニハ非常ニ良材ノ材ヲ伐出シタ、景福宮ハ我國ノ志士ガ王妃殺シニ入ツタ所デアラカラ能ク分ルデアラウガ、非常ニ立派ナ建物デアアル、大抵江原道カラ材ガ來タ、サウスルト無償デアテ納メナクテハナラヌカラ、今度ハ他ノ平安北道ノ方デモ、或ハ慶尙北道ノ方デモ、林ヲ持テ居レバヒドイ目ニ遭フ、江原道ノヤウニ貧乏シテシマウカラ、早ク伐テシマヘト云フコトデ、無暗矢鱈ニ山ヲ荒シタモシタダカラ、遂ニ只今ノ如キ嶺山秃峰ニナツテシマツタ、官本位ハ是ダケノ罰ガ當ル、朝鮮ノヤウニナリタクナイカラ私ハ此所デ多少ノ話ヲスルノデアアル、ソレカラ一ツ今ノ國有林ニ對シテ、田舎デハ部分木ト云フモノヲ植エテ居ル、其部分木ノ七分ノ利益ハ民ガ取り、三分ノ利益ハ官ガ取ル、大抵ソレデアアル、或ハ四分六分ノ所ガアル、此部分木ガナットモ育タナイ、

育ツ所ハ甚ダ不便ナ所デアアル、部分木ヲ植エルハ、閔元植
 扱サレテ居ル、閔元植扱—何デ貴様ハ部分木ナドヲ植エ
 ルノダ(「簡單」大ニヤレト呼フ者アリ)元ト民地若クハ部
 落有デアアルト云フコトガ貴様ハ分ラナイカ、民地若クハ部
 有デアアルト云フコトヲ云フスニハ、其土地ハ放ツラカシテ置ケ、
 ソイツヲ前官ニ願フテ七公三民ニ御願シマスト云フヤウ
 ナコトニナルカラ、元ト民地部落有デアアルト云フコトデナイ仕
 事ヲスル、所謂官有地デアアルト云フ裏書行爲ヲ前ハスルノ
 デハナイカト云フノデ、閔元植扱ヲサレ、何モ參政意見ナ
 ドハ要ラナイ、國權恢復スレバ宜イデヤナイカト皆ナ言フテ居
 ルノデス、ソレレデ此部分林ノ濫伐ト云フコトガ多イ、ソレカラ
 部分木ヲ植エタ人ハ、大抵其部落デハ餘リ對手ニサレナイ、
 小林區ノ役人ナドハ區長ノ所ヘ行カナイデ、部分木ヲ植エ
 タ所ヘ行クノデ、彼奴ハ密告バカリシテ居ル奴ダ、税金ナド
 ハ少シ餘計ニ課シテヤレト云フノデ、村會ナド儲ケガナク
 テモ上ノ方ニ等級ヲ上ゲラレテ居ル、斯ウ云フ理由デ山ノ利
 用ハ今ノヤウニシテ置クト、有ユル方面ニ百姓ノ怨ガアテ
 迪モ駄目ダ、ソレカラ水源涵養デモサウテアル、水源地ハ官
 有デアアルガ、其水源カラ出ル所ノ水ハ民有ダ、サウシタナラバ
 首尾一貫シタ所ノ産業政策ガ付クモノカ、斯ウ云フコトモ
 分ラナイ、ソレカラ馬ノ話デモサウダ、馬ハ秣草ガ足りナイ爲
 メニ痔馬バカリ出來ル、痔セタ牛バカリ出來ル、イザ鎌倉ト
 云フ時ニハ直チニ出合フコトガ出來ナイ、戰ノ上ニモ産業ノ
 上ニモ、馬ト云フモノハ最モ必要デアアル、佐野源左衛門常
 世ノヤウニ痔馬ニ鞭ヲテハ迪モ此戰ニ勝ヲ得ルコトハ出來
 ナイ、ソレカラモト酷イ事ヲ私ハ紹介シマセウ、斯ウ云フ事
 ハ澤山ハ無イガ、盜伐組合ト云フコトガアル、露骨ニ言ヘバ
 犯罪組合、是ハ已ムナクヤルノデアアル、例ヘバ其部落ノ溜池
 ヲ修繕スル爲メニ木材ガ要ルトカ、或ハ道路橋梁ヲ修繕ス
 ル爲メニ木材ガ要ルト云フ際ニ、迪モ貧弱ナ部落デハ買フコ
 トガ出來ナイカラ、已ムナク官材ヲ盜伐スル、サウシテ部落全
 體牢ニ入ルト云フコトハ非常ニ困ルカラ、其中ノ中野デア
 ルトカ加藤デアアルト云フ者ヲ指定シテ、サウシテ其部落ノ犧牲
 ニナルノデアアル、決シテ此木ヲ賣ツタ爲メニ土藏ヲ建テタト
 カ、田地ヲ買フノデアハナイ、此犯罪ヲ行ハナケレバ、其日ノ生
 活ガ出來ナイト云フコトハ、洵ニ悲惨事ト云フベシ、其日ノ生
 ナケレバナラヌト云フノデアアル、(拍手起ル)斯クスレバ斯クナ
 ルモノト知リナガラ、已ムニ已マレヌ所ノ犯罪組合デアアル、(拍
 手起ル)「旨イヒ」ト呼フ者アリ、今少シデス、(面白イ面白
 イ)ト呼フ者アリ、ソレカラ肥料ノ話デスガ、此間モ肥料ノ話
 ヲシマシタカラ、是ハ省キマス、(ヤレ)「イヤ」ハ省キマセウ、
 此間モ肥料ノ話ヲシタ、餘リ此議場ヲ腐ラカシテモイテマセ
 ヌカラ、モウ一ツハ地方ニ於テ唯一ノ樂ミトシテ居ル所ノ昔

狩ノ遊狩ヲ遊デアアル、是ハ近來ナットモ無クナツテシマツタ、東
 京ニ住ンデ居ル人ハ、今日ハ上野ヤ淺草ヤ、明日ハ何所ニ
 向島、京都方面ノ人ナラバ御室、飛鳥山、祇園トカ、サウ云
 フ所ニ杖ヲ曳イテ、數日ノ苦勞ヲ慰スルコトガ出來ヤウダ、
 田舎デハサウ云フ事ガ出來ナイカラ、一年ノ中ニハ昔狩ト云
 フ事ヲ唯一ノ樂ミトシテ居ル、所ガ昔一本取ルニモ金ヲ納
 メナケレバナラヌカラ、洵ニ此樂ミハ無クナツタ、朝早クカラ觸
 出シテ、サウシテ今日ハ昔狩デアアルト云フノデ、老若男女皆
 一升樽ヲ提ゲテ、或ハ重詰ヲ持テ山ヘ登ル、私ハ實際ノ話ヲ
 言フ、實際ノ話ヲ言ハナケレバ、田中君ナドハ一生懸念ニテ話
 吳レヌカラ、甚タベタツケテ面白クナイガ—百姓染ミタ話
 ダガ、ソレヲ言ハナケレバ、政府ノ決心ヲ促スコトガ出來ナイ、
 今ノ昔狩ノ際ニハ、年頃ノ娘ナドハ昔ヲ押付ケラレテ—山
 カラ採ツタ昔ヲ押付ケラレテ、顔ヲ眞赤ニスルヤウナコトモア
 ルノダ、サウシテ朝カラ晩マデ飲盡シ、嘔ヒ盡シ、踊リ盡シテ、
 サウシテ女子兩三醉ヲ扶ケテ歸ルヤウナ、此光景ト云フモノハ
 全ク田舎デナケレバ見ルコトハ出來ナイ、此間ニ剛健質朴
 ナ思想ガ養ハレレバ見ルコトハ出來ナイ、一日遊バニハ四
 圓トカ五圓ノ金ヲ持テ行カナケレバ遊ブコトガ出來ナイカ
 ラ、此唯一ノ樂ミモ奪取ラレテシマツタ、ソレレデ此問題ニ就テ
 衆議院ヲ通過シテ居ルコトハ五回デアアル、モウ輿論モ輿論
 大輿論デ、五回モ通過シテ居ル、ソレレデ炭炭議員ノ提案デ
 アル、新制議員ノ提案デアアルカラ、ソシナモノハ葬レト言フナ
 ラバ承知ガ出來ナイ、山ノ神様ノ暴レ方ハチツト暴レ方ガ違
 フ、徹底ニヤル、ソレレデ此問題ハ既ニ國民ノ輿論デアアルカ
 ラシテ、ドウシテモ政府ニ於テモ、十分決心ノ勝ヲ固メテ掛
 テ貫ハナケレバナラヌ、若シ之ヲ等閑ニ付スルヤウナコトガア
 タナラバ、大ニ此山神ニ信心ヲシテ、大暴レニ暴レナケレバナ
 ラヌ、輿論ニ反クト云フコトハ、即チ政府瓦解ノ端ヲ開クノ
 デアル、若シモ政友會政府ガ瓦角ノ端ヲ開クコトアリトスレ
 バ、即チ此山ノ問題ガ發端デアアルト思フノデアアル、(拍手起
 ル)何卒今申上ゲタ事ハ地方ノ土臭イ問題デ、諸君ノ奇麗
 ナ御耳ニ入レタノハ洵ニ申譯ナイガ、(「ノウ」)併シ百姓
 ハ百姓ラシク話ヲシテ、實際ヲ訴ヘナケレバ徹底シナイノデ
 アル、(拍手起ル)政府ニ於カレマシテモ今申上ゲタ外ニ、尙
 ホ此位モ材料モアルノデアアルカラ、喋舌ト云フナラバ、農商
 務省ニ行テ一日デモ三日デモ喋舌ト云フナラバ、農商
 題ハ輿論ノ聲トシテ、速ニ政府ニ於テモ御同意下サルヤウ、
 又此衆議院ニ於キマシテモ、滿場一致此問題ニ御賛成下
 サルコトヲ、此壇上ヨリ切ニ御願致シマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 宮古路三郎君
 ○宮古路三郎君 登壇(拍手起ル)
 此案ハ黨派問題デハ實際ゴザイマセヌ
 デ、只今委員長カラ申サレタ通りニ各派ヲ通ジテ二百六
 十名内外ノ提出者、並ニ賛成者ヲ以テ提案致サレタノデア
 リマシテ、而シテ委員會ニ於キマシテモ、滿場一致一人ノ異
 論ナク可決ニ相成ツタノデゴザイマス、ソレデアリマスルカラシ
 テ私ガ此所ニ出テ喋々スルト云フヤウナコトハ、恰モ敵ノ無イ
 ノニ矢ヲ放ツヤウデゴザイマシテ、必要ノ無イヤウデゴザイマ
 スケレドモ、併ナガラ此問題ハ御承知ノ通り、我國ガ山林國
 デアリマシテ、(分ッテ居ルヨ)反對スル者ガ無イデヤナイカ
 ト呼フ者アリ)生活ノ安定ヨシニ思想ノ善導ト云フコトニ就
 キマシテハ、大ナル關係ヲ有シテ居ルノデアアリマス、(反對ス
 ル者ハ無イデヤナイカ)ト呼フ者アリ)而シテ前途ヲ考ヘテ見
 マスルト云フト、決シテ樂觀ヲスルコトガ出來ナイノデアアリ
 マス、諸君ニ於キマシテハ十分ニ御賛成ヲシテ下サルト云フコ
 トハ固ヨリ承知シテ居リマススケレドモ、不幸ニシテ(「簡單」
 ト呼フ者アリ)或ル一角ニ於テハ、之ニ對シテ反對ヲセラレ
 テ居ル者モアリマス、加之速記ヲ通ジテ、十分ニ貴族院議員
 諸君ノ諒解ヲ得ナケレバナラヌト云フコトモアルノデアアリ
 マス、(「ヒヤ」)左様ナ關係ガアルモノデアリマスカラシテ、茲
 ニ私ガ從來ニ二三回此案ニ關係ヲ致シタコトモゴザイマスル
 シ、且又専門ニ研究ヲ致シタコトモ聊カアルノデゴザイマ
 スルカラシテ、少シク卑見ヲ申上ゲテ、諸君ノ御清聴ヲ願ヒ
 タイノデアリマス、(「謹聽」)ドウソニ三十分間ノ時間ノ割愛
 ヲ願ヒタイノデアリマス、(「簡單」)澤山ダ、此間聽イタヨ「謹
 聽」ト呼フ者アリ)先ヅ此案ニ就キマシテノ沿革ヲ一應申上
 ゲタイノデアリマス、明治三十五年中ニ第十六議會ノ當時
 ニ於テ、靜岡縣選出ノ松島廉作君等ヨリシテ、國有土地森
 林原野下戻法施行法ト云フモノガ提出ニ相成ツテ居リマス、
 此法案ハ國有土地森林原野下戻法ノ解釋法トモ申スヘ
 キモノデアリマシテ、即チ政府ガ之ニ對スル解釋ヲスルコトガ
 不當デアアルト云フコトカラシテソレヲ法律ノ明文ニ現ハシ
 タイト云フノデ、其提案ヲナサツタノデアリマス、委員會ニ於
 テ質問應答ヲ致シマシタ結果ニ於キマシテ、政府ハ其解釋
 法ニ大體ニ於テ賛成ヲ致サレタノデアリマス、贊成ヲ致サレ
 マシテ、其點ニ就キマシテハ、訓令ト云フ形式ヲ以テ之ヲ發
 布スルコトニ致シマシタ、然ル所此案ノ中ニ、一ツ申請ノ期
 間ヲ延長シタイト云フ一箇條ガアツタノデアリマス、此點ニ就
 キマシテハ、特別ナル法律ヲ設ケルト云フノ必要ガゴザイマ
 シテ、委員會ニ於テ一ツ案ヲ作ツタノデアリマス、其案ナル
 モノハ斯様ニ書イテアル「明治三十二年法律第九十九號
 國有土地森林原野下戻法第一條ニ該當スルモノニシテ期
 間内ニ下戻ノ申請ヲ爲サ、リシ者ハ明治三十五年十二月
 三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲナスコトヲ得」ト云
 フノデアリマス、是ニハ時ノ農商務大臣平田東助氏ガ(簡

單ト呼フ者アリ)同意ヲ致サレマシテ、委員會ニ於テハ可決ト相成リ、而シテ本院ニ於テ滿場一致ヲ以テ通過ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ガ即チ只今ノ此案ノ元租ト稱スベキモノデアリマスカラ、之ヲ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、而シテ其後明治三十六年第十八議會ニ於テ、又明治三十八年第二十議會ニ於テ、是等ノ議會ニ於テハ本員等ヨリ提出ヲ致シテ居リマス、其次ノ明治四十三年第二十六議會ニ於テ、又明治四十四年第二十七議會ニ於テ、齋藤二郎君等カラ提案ニナリテ居リマス、ソレカラ又終リニハ大正三年ノ第三十一議會ニ於キマシテ、伊藤祐一君等ヨリ提案ニ相成リテ居ルノデアリマス、(議場報告ハ、加減ニシ給ヘト)呼フ者アリ)斯クノ如クデアッテ、明治三十二年ノ六月ニ期限カ切レマシテカラ、以後引續イテ其出願ニ漏レテ居リマスルノヲ救済シヤウト云フノデ、斯ノ如ク幾度カ提案ニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、此案ナルモノハ即チ多年ノ懸案デアリマシテ、今日突然トシテ現ハレタモノハナナイノデアリマス、即チ之ヲ以テマシテ、此案ガ如何ニ國民ノ要望シテ居ルモノデアアルコト云フコトハ、十分ニ明瞭ヲ致シテ居ラウト思ヒマス、斯ノ如ク再ヒ三度幾度カ通過ヲ致シテ居ルノデアリマスカラシテ、是ガ英吉利ノ如クニ二回以上衆議院ヲ通過シタモノハ、上院之ヲ否決スルコトヲ得ズト云フヤウナ法律ガゴザリマシタナラバ、疾クニ是ハ法律ニナリテ居ルモノデアアルコト云フコトハ、洵ニ明カデアアルデアリマス、斯ノ如ク明治三十五年中ニ於テ、政府ニ於テモ同意致サレタノデアアル、明治三十五年デゴザリマスルカラ、御承知ノ通り官僚内閣時代デアリマス、此當時ニ於キマシテ、既ニ此案ハ賛成ヲ致サレタノデアリマスカラシテ、民意ヲ尊重スル所ノ民本政治ヲ執ル所ノ今日ニ於キマシテハ、是ハ賛成ヲ願ッテ、聊カ差支ノナイモノデアアル私共信ズルノデアリマス、以上ハ即チ此案ニ對スル所ノ沿革ノ大要デゴザリマス、是ヨリ進ンテ幕政時代ヨリシテ今日ニ至リマスルマデノ變遷ノ大要ヲ申上ゲマシテ、如何ニ山林制度ナルモノガ、幕政時代ニ於テハ人民ノ利益デアッテ、今日ニ於テハ人民ノ不利益デアルカ、如何ニ山林制度ニ關シマシテ、人民ガ幕政時代ヲ謳歌シテ居ッテ、今日ノ政府ヲ呪フ居ルコト云フコトノ大要ヲ、私ハ爰ニ申上ゲタイノデアリマス、幕政時代ニ於キマシテハ、御承知ノ通り各藩及幕府ニ於キマシテ、御林ナルモノヲ定メマシテ、或ハ藩ニ依リマシテハ、其名稱ハ異リマシテ或ハ御直山ト稱ヘル所モアリ、或ハ御留山ト稱ヘル所モアリマスガ、免ニ角御林ト云フモノヲ定メマシテ、其御林ノ以外ト云フモノハ、總テ是ハ人民ノ自由ニ委セテ置イタモノデアリマス、ソレデアリマスカラ、幕政時代ニ於キマシテハ、人民ナルモノハ自由ニ此山林ニ入りマシテ、木ヲ伐ルコトモ出來

レバ、草ヲ薙ルコトモ出來マスルシ、又必要ガアレバ質ニ入レルコトモ出來マスルシ、書入ニスルコトモ出來タト云フ状態デアアルノデアリマス、ソレ故ニ山ノ中ニ入りマシテ、山ヲ見當テニシテ住居ヲシテ居リマス所ノ者ハ、如何ニモ安ジテ生活ヲスルコトガ出來タ状態デアアルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、幕政時代ニ於キマシテハ、御林ヲ除キマシテ以外ト云フモノハ、人民ノ這入ラナカッタ所ノ奥山ヲ除キマシテハ、總テ民有地デアッタト云フテ決シテ差支ナイノデアリマス、然ル所明治ニ至リマシテ社寺土地處分ト云フモノガ出來、續イテ地租改正ノ處分ト云フコトニ相成リマシテ、其時ニ如何ナル事ヲシタカト申シマスル、其時ノ役人ナル者ガ各村々ニ臨ミマシテ、少シク段別ノ大キイ山林デゴザイマスルコト云フト、ソレヲ官ニ差出セト云フコトヲ命令致シマシタモノデアアル、山林ナルモノハ之ヲ却テ民有ト致シテ置ケバ、租稅ガ澤山出ルコトニ相成ル、然ルニ山林ハ逃ゲモ隠レモセヌノデアアルカラ、人民ハ自由ニ之ニ這入リテ利用ヲスルコトガ出來ルノデアアルカラシテ、之ヲ官ニ差出スガ利益デアアルコト云フコトヲ申シマシタ、切捨御免ノ時代ヲ去ルコト僅カデアリマス所ノ時代デアリマスカラシテ、人民ハ如何ニモ官吏ノ言フコトニ服シマシテ、山林ノ大キナモノハ總テ之ヲ官有ニ差出シテシマッタノデアリマス、社寺ニ就テモ同様ニ舊境内ヲ恰モ諸大名ノ領地ノ如クニ、之ヲ官ニ差出シテシマッタノデアリマス、斯ノ如クシテ多クノ民有地ナルモノハ、總テ之レガ官有地ト相成ッタノデアリマス、先頃諸君ハ國有財産法ト云フモノヲ御議定ニ相成ッテ居リマスルガ、驚クベシ此國有財産ノ大部分ハ、民有地ヲ取上ゲタ所ノ、即チ横領ナルル姿ヲ成シテ居ルモノデアアルト云フコトデアリマス、(拍手起ハ)極端ニ申シマスレバ、全ク民有地ヲ横領ヲシテ、之ガ今日ノ國有財産ノ大部分ヲ占メテ居ルト云フ、奇怪ナル現象ヲ茲ニ呈シテ居ルノデアリマス、社寺上地處分並ニ地租改正ノ處分ノ際ニ於テハ、最初ノ間ハ監督モ嚴重デゴザイマセヌカラシテ、人民ハ自由ニ山林ニ入ッテ使用收益ヲスル、然ル處段々ト監視ガ嚴重ニナリマシテ、木ヲ伐ッテハ相成ラヌ、草ヲ刈ッテハ相成ラヌト云フテ、頻リニ役人ヨリシテ止メラレルコトニ相成リマシテ、終ニハ或ハ木ヲ伐リ、或ハ草ヲ刈リタ所ノ者ガ牢獄ニ投ゼラレテ、懲役ヲシナケレバナラヌト云フ所ノ、憫レナル現象ヲ呈シテ參ッテデアリマス、茲ニ於テ初メテ人民ハ目ガ覺メマシテ、是デハナラヌ、元來自分ノ所有ノ物デアッタノヲ官ニ取ラレテ居ルノデアアルカラ、ドウカシテ之ヲ回復シナケレバナラヌト云フノ考ヲ起シ來ッテデアリマス、此所ノ始メテ下戻ノ申請ト云フモノヲスルコトニ相成リマシタノデアッテ地租改正並ニ社寺上地處分ヨリ明治三十二年ニ至リマス

間ハ、此下戻ノ申請ト云フコトヲ致シタノデアリマス、然ル所明治三十二年ニ至リマシテ、第九十九號ト云フ法律ヲ設ケマシテ、其下戻ヲ爲ス者ハ、明治三十三年ノ六月マデニセナケレバナラヌト云フノ法律ヲ制定致サレタノデアリマス、其法律ガ出來マシタカラシテ、ソレニ依ッテ人民ハ下戻ノ申請ナルモノヲ致シタノデアリマスガ、併ナガラ元來ソレ迄ノ間ト云フモノハ、何日何時下戻ノ申請ヲ致シテモ差支ナイト云フコトニ相成ッテ居タ、ソレデアリマスカラシテ、何日何時下戻ナルモノハ出來ルモノト心得テ居シテ、遂ニ此九十九號ノ法律ノ一年二箇月ト云フ期間ヲ、知ラズニシマッタ者ガ多クアルノデアリマス、ソレカラ又其申請ヲ致シマシテ却下ニ相成ッテナラバ、行政訴訟ノ途ガアルノデアリマスケレドモ、是ハ僅ニ六十日ノ期間デアリマスカラシテ、其期間ノ事ニ心付カズシテ、遂々又其期間ヲ失シタ者ガ出デ參ッタノデアリマス、是ガ即チ此度此法案ヲ提出致シマシテ、救済致シタイト云フ所ノモノデアアルノデアリマス、斯様ナ譯デアリマスガ、元來今日ノ現狀ト云フモノハ、ドウナッテ居ルコト云フコトヲ一言御參考ニ申上ゲタイト思ヒマス、御承知ノ通り今日ノ人口ガ非常ニ殖エマシテ、生活ノ困難ヲ來シテ參リマシタ、生活ノ困頓ヲ來タマシテ、山國デアリマスル、山林ガ無クレバ最モ生活ニ困難ヲ致スノデアリマス、軒下カラ官林デアアル云フヤウナ状態デアリマスカラ、實ニ生活ニハ非常ナル苦痛ノ感ズルト云フノ状態ニ相成ッタノデアリマス、併ナガラ元來自分ノ物デアアルト云フ考ガ失セマセヌカラシテ、其山林ニ入りマス、私ノ知ッテ居ル範圍内ニ於キマシテモ、此盜伐ノ事トシテ居リマシテ、盜伐ヲシナケレバ到底生活ガ出來ナイカラ、已ムヲ得ヌノデアアルト云フコト、如何ニ檢舉ヲシマシテモ、之ニ對シテ止マルト云フコトガアリマセヌノデ、引續イテ何時デモ盜伐ヲシテ、犯罪人ニナルコトヲ覺悟致シテ居リマス所ノ村ガゴザイマス、洵ニ憫レナ者デアリマスガ、併ナガラ生活ニハ代ヘラレマセヌカラシテ、懲役ヲドシト勤メテ居ルト云フ状態デアリマス、先刻中野君ノ申サレタ犯罪組合ト云フヤウナモノハ、矢張此種類ニ屬スルモノデアリマセウ、斯ノ如キ者ハ東北地方ノ山國ニ多イノデアリマセウ、併ナガラ是ハ敢テ東北ニ限ルノデアリマセウデ、日本全國ニ於キマシテ、山林ノ多イ所ニ於キマシテハ多ク見ル所ノ現象デアリマス、御料地ノアル國ニ於キマシテハドウデアアルカト申シマスル、是ハ又實ニ言フニ忍ビザル所ノモノガゴザイマス、靜岡縣カラ御選出ニナッテ居ル清君ノ如キハ、能ク此事情ヲ御承知デアラシヤイマスガ、隨分此御料地ニ於キマシテハ、ヒドイ状態ヲ爲シテ居ル、矢張軒下カラ御料林ニナッテ居ルト云フヤウナ處ガ非常ニ多イ、而シテ此御料林ト云

フモノハ、元來官林ヨリシテ出來タ所ノモノデゴザイマスカラ
 隨テ多クハ民有林ガ御料林ニ相成テ居ルノデアリマス、ソ
 レデゴザイマスカラ、人民ニ於キマシテハ、御料林ヲ以テ依然
 トシテ自分ノ所有ナリト云フ觀念ヲ持テ居ルノデアリマス、
 然ル所御承知ノ通り御料林デゴザイマスカラシテ、皇室ノ御
 所有ニ相成テ居ル譯デゴザイマス、皇室ノ御所有ニナツテ居
 ルニ拘ラズ、自分等ノ所有デアルト云フ觀念ガ失セマセヌカ
 ラ、人民ニ於キマシテハ、實ニ皇室ニ對シマシテ申上ゲルコト
 ノ出來ナイヤウナ行動ヲ執テ居ル者ヲ、屢ニ致スノデア
 リマス、如何ニモ恐懼ニ堪ヘヌ事柄ガ、諸方ニ現ニ存シテ居
 ルノデアリマス、御承知ノ如ク山梨縣ニ於キマシテハ、一万
 町歩ノ恩賜林ガゴザイマスカ、其由來ヲ調ベテ見マシタ所デ
 ハ、實ニ寒心ニ堪ヘヌ事ガアルノデアリマス、斯様ナ譯合デゴザ
 イマシテ、先日委員會ニ於テ清君ノ御話ニモゴザイマシタガ
 御料林ニ參テ居ル所ノ御料林ヲ、人民共ガ捕縛シテシ
 マッタノデアリマス、此料林村ノ御料林ヲ捕縛シテシマツ
 ト云フヤウナ事柄ハ、矢張自分ノ所有物デアアル所ノモノニ就
 テ、木ヲ伐テ居ルノヲ制止サレルト云フ考ガ心ノ中ニアリマ
 スカラ、從テ左様ナ穩カナラヌ行動ニ出ヅルモノデアラウト
 思フノデアリマス、而シテ今日ニ於キマシテモ、御料地カラシ
 テ下戻ヲシテ賞ヒタイト云フノ請願ガ、御料局ニ幾多山積
 致シテ居ルト云フコトデアリマス、御料局ニ於キマシテハ、矢
 張期限ガ切レテ居ルノデアアル、明治三十四年ニ於キマシテ、
 御料林ノ下戻ノ期間ト云フモノハ切レテ居ルノデアリマス、
 然ルニモ拘ラズ左様ナ下戻シノ申請ヲ今日ニ於テモ致シテ
 居ルノデアリマス、本案ト御料林ノ關係ハ如何デアアルカト申
 シマス、御料林ノ方ニ於キマシテハ、常ニ國有林ヲ標準ト
 致シテ取扱フ致シテ居リマス、ソレデアリマスカラ、本案ガ幸
 ニシテ議會ヲ通過致シマスレバ、御料林ノ方デモ矢張是ト同
 ジ法令ヲ設ケルト云フコトハ、今日迄ノ實例ニ於テ定マツテ
 居ルノデアリマス、左様ナ次第デアアルノデアリマスカラ、實ニ
 穩カナラヌ状態デアアルト云フコトハ、諸君ノ御考ノ中ニ入レ
 テ置イテ戴キタイト存ジマス、次ニ最モ諸君ニ御注意ヲ願ヒタ
 イコトガ、一ツゴザイマス、元來是ハ民有地デアアルモノヲ官有ニ
 取上ゲラレタカラ之ヲ回復シテ賞ヒタイト云フノデアアル、即チ
 私權ヲ侵害セラレテ居ルカラ、其私權ノ回復ヲシタイト云フ
 ノガ此案ノ趣意デアリマス、事私權ニ關係致シテ居リマス以
 上ハ民法ノ原則ニ從テ、所有權ノ回復ガ出來ナクテハナ
 ラヌ筈デアリマス、ソレデアリマスカラ、今日迄ニ屢ニ政府ヲ相
 手取テ、民事裁判所ニ訴訟ヲ起シタ者ガアルノデアリマス、
 其結果ガドウナクナツト云フコトヲ申シマス、第一審ニ於キマ
 シテハ、多クハ原告ノ勝訴ニナツテ居ル、即チ自己ノ所有デア
 ル所ノ物ヲ官林ニ編入サレ、官林ニ取ラレテ居ルカラ、所有

權ヲ侵害セラレテ居ルノデアアルカラ、是ハ原告ニ返スガ至當
 デアルト云フ民事ノ裁判ヲ受ケテ居ルノデアアル、然ル所大審
 院ニ至リマシテハ、其裁判ガ遂ニ原告ノ敗訴ニ歸シマシタ、
 原告ノ敗訴ニ歸シマシタ理由如何ト申シマスレバ、地租改
 正並ニ社寺上土地處分ト云フモノニ依テ、ソレガ官有地ニ編
 入サレタノデアアルカラ、即チ行政處分ニ依テ、官有ニ編入サ
 レテ居ルノデアアルカラ、如何ニ間違テ居ルモ、既ニ官有ト
 相成テ居ルノデアアルカラ、民事裁判所ニ其所有權回復ト
 訴ヘルコトハ出來ヌ、斯様ナ理由ニ依リマシテ、大審院ニ於
 テ敗訴シタノデアリマス、若シ大審院ニ於テ左様ナ判決ガ無
 カツナラバ、本案ノ如キ法律ノ必要ハ無イノデアリマス、即
 チ民事裁判所ニ訴ヘテ、ドンドンノ所有權ノ爭ヲ致シテ差支
 ガナイノデアリマス、併ナガラ、只今申シマシタ通り
 ニ、大審院ニ於テ敗訴ノ判決ガアリマシタガ爲メニ、已ムヲ
 得ズ本案ニ依テ、之ヲ救済シナケレバナラヌト云フコトニ相
 成タノデアリマス、併ナガラ免ニ角其性質ト云フモノハ、私
 權ヲ侵害シタモノデアアルノデアラ、民事ノ裁判所ニ訴ヘテモ
 是ハ救済ガ出來ルモノデアアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒタ
 イノデアリマス、此點カラ申シマシテモ、本案ノ如キ法律ヲ制
 定シテ、此民有財產ヲ民有ニ返シテヤルト云フコトガ相當
 デアルト云フ事柄ガ、明カデアアラウト思フノデアリマス、次ニ
 一ツ御留意ヲ願ヒタイト存ジマス、ハ、明治三十二年ノ法
 律第九十九號ト云フモノヲ施行シタ結果ガ、實ニ驚クベキ
 不公平ナルコトニ相成テ居ルト云フノ一事デアリマス、是
 ハ御承知ノ通り下戻法ト云フモノハ、證據ヲ要スル、其證
 據ハ公書若クハ公簿デナケレバナラヌト云フヤウナコトガ書
 イデアリマス、ソレデアリマスカラ、證據ガ而モ公書公簿ト云
 フヤウナ證據ガ無クレバ、此下戻ハ出來ナイモノデアリマス、
 昔ノ有様ニ於キマシテ、或ハ山論ヲ爲シ、或ハ貧乏ニシテ質
 入書入ヲ爲スト云フヤウナ村方デアリマスレバ、多少ノ證據
 ガ殘テ居ルガ、山論モ無シ、又左程ノ貧乏ニ非ズシテ、質入
 書入モ致サヌト云フヤウナ所ニ於キマシテハ、證據ガ無イノ
 アリマス、證據ハ無イケレドモ、併ナガラ同ジ藩同ジ支配ヲ受
 ケテ居ル甲乙ノ二箇村ニ於テ、決シテ其所有權ノ状態ガ變
 ルベキ筈ガナイ、一ツハ證據ガ有リ、一ツハ證據ハ無イ爲メ
 ニ、一ツハ却下トナリ、一ツハ下戻ナルト云フヤウナ状態ニ
 ナツノデアアル、斯様ナ譯デアリマスカラシテ、農商務省ニ申請
 ニ相成リマシタ件數ガ、二万六百餘件モアッタノデアリマスガ
 其中下戻處分ニナリマシタモノハ極メテ僅少デアアル、昔ノ状
 態ヲ申シマスレバ、先刻モ申シマシタ通り、民有財產デア
 タ所ノモノヲ、其中ボツ／＼民有ニ下戻ニナツト云フ状態デア
 恰モ籤ヲ引イテ、是ガ民有ニ相成タト云フガ如キ状態ニナ
 タノデアリマスカラ、同ジ民有地デアリナガラ、片

一方ハ民有トナツケレドモ、多クノモノハ民有トナラヌト云
 フ、不公平ナル状態ニ立至テ居ルト云フコトヲ御承知ヲ
 願ヒタイ、此法案ニ依テ、此不公平ノ全部ヲ救済スルト云
 フコトハ勿論出來マセヌ、併ナガラ此法案ニ依テ、幾分
 カ此不公平ヲ救済スルコトガ出來ルト云フコトハ、ドウ
 御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ又今日此現狀
 ノ有様ニ之ヲ放任シテ、置イタナラバ、其結果ハドウナル
 デアラウカト云フコトモ、一ツ御留意ヲ願ヒタイ、此儘ニ放
 任シテ置カト云フコトニ相成リマスカラバ、是ハ元來自分ノ
 所有デアアルト云フノ觀念ハ失セヌデアリマス、是ハ元來自分ノ
 官ヲ怨ミ、又永ク政府ヲ敵トスルト云フノ事實ニ相成ルノ
 デアリマス、殊ニ今日西洋思想ノ流入ノ甚ダシキ時代ニ於
 キマシテハ、最モ自己ノ財產ヲ奪ハレタノデアアルト云フノ觀
 念ガ強ク響クモノデアラウト思ヒマス、サウシマスト云フト、其
 山林ニ對シテハ、或ハ火ヲ放チ、或ハ盜伐ヲ致シマシテ、政府
 ガ如何ニ山林ノ經營ヲ爲サウト致シマシテモ、ソレニ對シマ
 シテ、甚シク妨害ヲスルト云フコトハ覺悟シナケレバナラヌノ
 デアル、且又斯様ナ状態デゴザイマスカラバ、此人民ノ思
 想ト云フモノハ、非常ニ之ヲ險惡ニ導クト云フコトニ相成ル
 ノデアアルト云フコトハ、是亦覺悟シナケレバナラヌノデアリマ
 ス、若シ反對ニ之ヲ民有ニ下ゲタナラバドウデアアルカト申シマ
 スルナラバ、是ハ必ズ愛林ノ情ヲ以テ之ヲ擁護致シマスカラ
 シテ、非常ニ山林其モノニ對シテ利益ト相成リマシ、政府
 ニ於テモ亦是カラシテ、十分ノ租稅ヲ取立テルコトガ出來
 ルノデアアルカラシテ、即チ一舉兩得ニ相成ルデアラウト信ズ
 ルノデアリマス、斯様ナ譯デアリマスカラシテ、本案ノ如ク是
 ハ更ニ期間ヲ與ヘテ、下戻シヨスルト云フコトガ至當デア
 ト考ヘルノデアリマス、爰ニ終リニ反對論者ガアリマス、コト
 ヲ聞及ビマスカラシテ、本院ニ於テ有ルト云フコトハ勿論
 ナイノデアリマスガ、或ル方面ニ於テ反對論者ガアルト云
 フコトヲ聞及ンデ居ルノデアリマスカラ、私ハ其反對論ノ一
 二ニ對シマシテ、終リニ爰ニ辯明ヲ致シテ置キタイノデアリ
 マス、反對論ノ一ツト致シマシテハ、期限ヲ既ニ永ク與ヘテ居
 ルノデアラ、地租改正並ニ社寺上土地處分ノ際ヨリシテ、明
 治三十二年マデ與ヘテ居ルノデアリカ、斯ノ如ク永ク與ヘ
 テ居ルノデアアルカラ、又之ヲ與ヘル必要ハ無イノデアリカト
 云フコトガ即チ一ツアリマス、然ル所先刻モ申シマシタ通り
 地租改正社寺上土地處分ノ時カラシテ、明治三十二年マデ
 ト云フモノハ、イツ何時デモ下戻ノ請求ヲスルコトガ出來ルト
 云フコトニ相成テ居ラカシテ、人民ノ方カラ申シマスレ
 バ、何時デモ下戻ガ出來ルモノト心得テ居ラカシテ、デアリマ
 ス、然ル所明治三十二年ニ一箇月ト云フ僅少ナル期
 間ヲ設ケテ、法律ヲ作ラシテ、デアリマス、ソレデアリマスカラシ

テ、今マデハイツ何時デモ下戻ガ出来ルト云フ頭ガアツテ、三十二年ノ法律ヲ氣ガ著カズニ居リマシテ、何時デモ出来ルト云フ考ヲ持テ居リマシタカラシテ、遂ニ願損ヒヲ致シマシタ所ノ者ガ、澤山出テ參タノデアリマス、今日各所ニ於キマシテ出願漏ガ澤山ゴザイマスル爲メニ、當院ニモ澤山請願ガ出テ居リマスガ、矢張斯様ナ結果カラ來テ居ルノデアアル之ヲ見マスレバ如何ニ出願漏ガ出来タカト云フコトガ明カニ判ルト思ヒマス、又元來此法律ガ官有地ヲ民有地ニシテ與レト云フノデハゴザイマセヌデ、民有地ガ誤テ官有地ニナレテ居ルノヲ、民有ニ引戻シテ與レト云フノデアリマスカラ、國家ニ於テ之ニ反對スル理由ハ、ドウシテモ見出スコトハ出來ナイノデアリマス、期限ガ切レタカラト云フ理由ヲ以テ、之ヲ取上ゲテ差支ナイト云フ理由ハ、ドウシテモ私ハ發見スルコトハ出來ナイノデアリマス、今若シ人ヨリ金ヲ借りマシテ、時効ガ來タカラ、金ヲ返スニ及バヌト云フコトヲ紳士ガ申スコトガ出來マセウカドウカ、期限ガ切レタカラト云フ返サマデモ宜イ、時効ニ係ラタカラシテ金ヲ返サマデモ宜シトハ、決シテ紳士タル者ハ申スコトハ出來ナイト思ヒマス、斯ノ如ク紳士ニシテ時効ヲ抗辯トシテ金ヲ返ヘサヌト云フヤウナコトガ出來ナイトシタナラバ、苟モ堂々タル所ノ國家ガ期限ガ切レタカラト云フノデ、汝ノ所有地ナルモ之ヲ返スノ必要ナシト云フコトヲ言フタナラバ如何デアリマセウ、私ハ此理由ヲ以テマシテ、如何ニ長イ間期限ガアツト云ウテモ、此人民ニ所有物ヲ返サマデモ宜イト云フ理由ハ、斷ジテ無イト謂フテ差支ナカラウト存スルノデアリマス、且又一昨年家祿賞典祿處分ニ關スル法律ナルモノガ、本院ヲ通過致シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、彼ノ家祿賞典祿ニ依テ御覽下サレバ是ハ能ク判カル、是ハ一旦既ニ期限ガ切レマシタノデアリマスガ、明治三十年ニ於キマシテ、一旦此期限ヲ與ヘルコトニナリマシタ、一箇年間ノ期間ト云フモノヲ與ヘマシテ、更ニ申請スルコトヲ許シタノデアリマス、而シテ明治四十二年ニ至リマシテハ、又之ニ對シテ行政訴訟ヲ許ス途ヲ開イタノデアリマス、然ル所明治三十年ノ法律第五十號ニ於キマシテ、出願漏ガ出來マシタ又明治四十二年ニ於キマシテ、行政訴訟ヲ起ス漏レガ澤山出來マシタノデアリマス、此ニツテ救済スルト云フノデ、一昨年第四十一議會ニ於キマシテ、此家祿賞典祿處分ニ關スル法律案ガ本院ヲ通過致シマシテ、政府ニ於テ又最後ノ制法ナリトシテ同意ヲ與ヘラレテ、貴族院モ通過致シテ法律トナタノデアリマス、家祿賞典祿處分法ニ於キマシテハ、既ニ左様ナ關係ニナレテ居ルノデアリマスカラシテ、是ヨリモト理由ノ強イ所ノ、即チ民有地ヲ民有ニ返スト云フ所ノ此法律案ガ、政府ノ同意ヲ得ラ

レスト云フコトハ無キ筈デアラウト私ハ信ズルノデアリマス、其次ニモウツ反對論ノアリマスルノハ、森林經營ノ妨害ニナルト云フ説デアリマス、成程森林經營ニ對シマシテハ、多少ノ妨害ニナルト云フコトハ覺悟シナケレバナラヌ、併ナガラ此森林經營ト申シマスルモノハ、非常ニ澤山アル森林ニ對シテ經營ヲ致スモノデアアル、今下戻ノ申請ヲスル所ノモノハ今日迄ノ分ニ漏レタモノニ對シテ許サントスルモノデアリマス、只今申シマシタ通り、一万六百餘件ノ申請ガアリマシタ、ソレニ漏レタ所ノモノヲ申請セシメヤウト云フノデアリマスカラ、其數タルヤ極メテ微々タルモノト謂ウテ差支ナイノデアアル、ソレカラ又行政訴訟ヲ起サナカッタモノニ對シテ、之ヲ起スコトヲ許スト云フノデアリマスガ、此行政訴訟ナルモノモ、前ノ處分ニ漏レタモノハ僅ニ一割ニ充タナカッタノデアリマス、而シテ今日ニ於キマシテ其殘タ所ノモノハ、多クハ處分濟ニ相成レテ居ルノデアリマスカラ、今日此法案ニ依テ行政訴訟ヲ起スト云フヤウナ數ハ、亦知レタモノデアルト云フコトハ想像スルニ餘リアルノデアアル、然ラバ斯ノ如キ僅カナルモノニ對シマシテハ、森林經營ヲ妨ゲルカドウカト云フコトニ相成ルノデゴザイマスガ、森林經營ヲ妨ゲルト云フコトガ餘アリヤウハ無イ、ト申シマスルノハ、森林經營ハ何所迄モ之ヲ中止セズシテ、依然トシテヤテ宜シイノデアアル、其中ヨリ民有トシテ下戻ニナル物ガアリマシタナラバ、其分ニ對シマシテハ、更ニ森林ノ經營費ヲ徵收スレバ宜シイノデアアル、森林ノ經營費ヲ徵收シテ居ルコトハ、今日迄デモヤテ居ルノデアリマスカラ、之ヲヤリサヘスレバ少シモ差支ナイノデアリマスカラ、決シテ森林經營ニ害ニナルカラト云フ理由ヲ以テ、本案ノ如キモノヲ葬リ去ルト云フコトハ出來ベキモノデナイト云フコトヲ、御承知ヲ願ヒタイノデアアル、又其他人ノ所有物ヲ橫領シテ置キナガラ、自分ノ計畫ニ妨害ガアルカラト云フノ理由ヲ以テ、之ヲ返スト云フコトハ相成ラマスト云フコトヲ、(拍手起ル)堂々タル國家ト致シテ、言フコトガ出來ナイト云フ事柄ハ明瞭デゴザイマスカラ、森林經營ニ害アルノ理由ヲ以テ、此案ヲ葬ルコトハ斷ジテ出來ナイト云フコトヲ私ハ爰ニ申述ベテ置キタイノデアリマス、左様ナ次第デゴザイマスカラシテ、本案ニ對シマスル所ノ反對論ト云フモノハ、如何ニモ理由ノ無イ事柄デアアルト云フコトヲ、十分ニ御承知ヲ願ヒタイノデアアル、家祿賞典祿處分ニ於キマシテモ、其數ガ大分多カラウト云フヤウナ懸念ヲ致シタモノモアリマス、併ナガラ一昨年此法律ガ出來マシタ結果ヲ見マスト云フコト、其數ハ極メテ少數デアリマス、少シモ計畫ヲ害スルト云フコトハ無イト云フ事柄ハ、此實例ニ徴シテ極メテ明白デアアル、或ハ又委託林云々ト云フコトヲ申

シマシテ、反對ヲ致スヤウナ方モアルヤウデアリマスルガ、御承知ノ通り、委託林ト云フモノハ、單ニ村ニ對シマシテ枯木ヲ採ル、或ハ草ヲ薙ルト云フコトヲ許スダケデゴザイマスカラ、本案ノ如キ所有權ノ關係ヲ解決スル問題ニハナラナイト云フコトハ、洵ニ明瞭デアラウト思ヒマス、之ヲ要スルニ本案ナルモノハ、更ニ一回出願又ハ出訴ノ期間ヲ定メテ全ク民有地ヲ、官ニ取上ゲラレタ所ノモノヲ、民有ニ引戻セト云フ案デゴザイマシテ、民法ノ原則ニ照シマシテモ、是ハ極メテ相當ナルモノデアツテ、毫モ非難スベキ理由ノ無イモノデアリマス、又森林經營ニ害ガアルト云フ理由ヲ以テマシテ、之ニ反對スルト云フヤウナコトハ、是ハ一ツノ泣言ニ過ギナイノデゴザイマス、故ニ其様ナ理由ヲ以テハ之ニ反對スルコトノ出來ヌモノデアアルト云フコトハ、極メテ明瞭デゴザイマスルシ、而シテ又家祿賞典祿ニ依テ、其實例ト云フモノハ極メテ明カデアリマシテ、既ニ家祿賞典祿ニ於キマシテ政府ノ同意ノアリマシタ以上ハ、本案ニ對シマシテモ亦同様ノ御同意ヲ下サイマシテ、ドウソク滿場一致ヲ以テ御通過ヲ下サイマシテ、國民ノ希望ノ此ニアルト云フコトヲ天下ニ明ニサレシコトヲ望ムマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 田中農商務次官

〔政府委員田中隆三君登壇〕

○政府委員(田中隆三君) 此場合簡單ニ本案ニ對スル政府ノ意思ヲ表明致シテ置キマス、本案ハ先刻來提案者其他贊成ノ方ニカハラシテ、御熱心ニ御説明ノアリマシタ如ク既ニ二十六議會、十八議會、或ハ二十一議會、二十六回、二十七回ト云フ、引續イテ矢張議會ニ御提案ニナリ、又三十一議會ニモ御提案ニナテ、何レモ本院ハ通過シテ居リマス此度デ七回目ニナル譯デアリマス、政府ニ於テモ、本案ニ對シテ御同意申上ゲ兼ネルト云フコトヲ述ベマスコトハ、實ニ遺憾ニ堪ヘマセヌ次第デアリマス、併ナガラ其度々ノ議會ニ於テ申上ケマシタ如ク、此森林下戻ノ處分ト云フモノハ、地租改正以來ノ處分ノ誤謬訂正ト云フ名ノ下ニ、十七八年間續イテ處分シ來テ居リマスノデ、而シテ其十七八年ノ間ニ於テ、尙ホ數回或ハ訓令、或ハ省令等ニ依テ、手續其他ノ事ハ人民ニ能ク知ラサレアルノデアリマス、何時迄モ其處分ガ著カナイ爲メニ、國有林ノ經營上ニ於テ甚ダ遺憾ヲ感ズルト云フノデ、明治三十二年ニ至リマシテ、一年間ノ期限ヲ以テ最早之ヲ打切トスルコト云フコトノ法律ガ出タノガ所謂下戻法デアアルノデアアル、サウ云フ次第デ今日ニ至リテ居ルノデアリマシテ、今再ビ又此下戻手續ヲ開始スルト云フコトハ、政府トシテハ諸般ノ關係ニ於テ、甚ダ御同情ニ堪ヘマセヌケレドモ、御同意致シ兼ネルト云フ結論ニナルノ

デアリマス、尙ホ先刻來皆サンカラシテ、山林ト地方民トノ間ノ關係ノ圓滿デナイコトニ就テ、色々御話ガアリマシタノデ、此點ハ多年當局ニ於テモ非常ニ苦慮シテ居ル點デゴザイマス、殊ニ國有林ト其國有林ノ所在町村トノ間ノ關係ヲ圓滿ナラシムルコトニ就キマシテハ、大變ニ苦慮シテ居リマス、殊ニ近ク此關係ヲ益々親密ニナラシムル意味ヲ以テ、一面ニ於テ其所在町村或ハ部落等ニ其森林ノ保護ヲ御依頼致シマシテ、サウシテ其代リ報酬トシテ、或ハ山林ノ副産物、或ハ自家用ノ薪炭材、或ハ官公事業等ノアリマシタ際ニ、其主タル木材ハ別ト致シマシテ、枝デアリマストカ、枝條ニ屬スル末木デアルトカ云フモノモ、無償デ村民ニ與ヘヤウ其森林經營中ニ手入ノ爲メニ伐採シタ樹木等モ、所謂其保護料トシテ村民ニ與ヘヤウ、サウシテ兩々相俟ッテ、村民トシテハ保護ノ義務ヲ負ヒ、又政府トシテハ其保護ニ對シテ、今申上ゲマシタヤウナ諸般ノ利益ヲ與ヘヤウ、先程中野君ウラ特ニ熱心ニ御話ノアリマシタ如ク、栗ヲ拾ッテ、松茸ヲ取ッテト云テ叱ラレト云フコトハ、其制度ガ實施シマスレバ今後ハ起リマセヌ、ソレ以上ノ副産物ヲ村民ニ與ヘヤウト云フ計畫ヲ立テマシテ、只今著々其取調中デアリマス、近キ將來ニ於テ、私共責任ヲ以テ其方法ヲ實施セント致シテ居リマス、デゴザイマス、無論御満足デナイコトハ承知シテ居リマス、ケレドモ、之ニ依ッテ先來御述ニナリマシタヤウナ政府ト村民トノ間ニ敵味方トナッテ、面白クナイ感情ヲ醸成スルト云フヤウナコトハ無イコトニ至ルモノト期待シテ居リマス、之ヲ以テ御答辯ト致シマス

○議長(與繁三郎君) 本案ノ討論ハ既ニ盡キマシタ—採決シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス—第二讀會ヲ開クニ御異議ナイト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定アラント望ミマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案 第二讀會(確定議)

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ本案ハ動議ノ如ク、即チ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手起ル)日程第五、決議案ヲ議題ト致シマス、小山松壽君

第五 決議案(齋藤總督ノ朝鮮統治ニ關スル件)(三木武吉君提出)

決議案

決議

齋藤朝鮮總督ハ朝鮮統治ニ關シテ誠意ナキモノト認ム右決議ス

〔小山松壽君登壇、拍手起ル〕

○小山松壽君 諸君、日韓ノ兩國併合ノ意義ニ照シマシテモ、又明治大帝ノ聖旨ヲ奉體致シマスル次第カラ考ヘマシテモ、去ル二十五日中野正剛君提出ノ、朝鮮統治ニ關スル調査機關設置ニ就テノ建議案ハ、外ハ國際關係上ニ帝國ノ威信ヲ保持シ、内ハ千七百万人ノ新同胞ノ福利ノ増進ノ將來ヲ考ヘマスル點カラ見マシテモ、極メテ重大デアリマシテ、之ガ爲メニ提出者ノ說明ハ、懇切ニ丁寧ニ質疑ハ十分ニ應答アリマシテ、討論ハ慎重ニ盡サレタデアリマス、然ルニ當日ノ光景ハ諸君ノ御覽ノ通り、此壇上ニ於テ諸君ノ述ベラレマシタル其趣旨ガ言々適切、爲政者ノ宜シク採テ其資料ト致サナケレバナラヌニ拘ラズ、一議員ノ齋藤總督ノ手許ニ往ッテ私語スルヤ、總督倉皇トシテ政府委員ノ席ヲ離レ、而シテ其質疑ノ必要上其出席ヲ要求スルノ急サルヲ看テ、本院ヲ退院セラレタルコトハ議長宣告ノ通りデアリマス、其職責上斯ノ如キ重大ナル案ノ議會ニ提出セラレタルニ際シマシテハ、現下ノ情勢ニ鑑ミテ、總督親ラ其所信ヲ披瀝シテ、以テ鮮民ノ動搖ニ對シテ、其心アル所ヲ盡サナケレバナラヌ、若又總督ガ所用アッテ、已ムヲ得ザルコト、致シマスルナラバ、水野總監在ルアリ、其部下ヲシテ斯ル機會ニ於テ、其趣旨ヲ辯明セシメナケレバナラヌニモ拘ラズ、一言モ之ヲ公ニスルコトナシト云フニ至リマシテハ、議院ヲ侮辱シ、其職責ニ忠ナラザル者ト私ハ認メルモノデアリマス、(拍手起ル)對鮮政策ニ關シマシテ、吾々ハ甚シク之ヲ憂慮シ、遺憾トスルモノノ多イデアリマス、斯ノ如キ不誠意ハ、斷ジテ默過スルコトガ出來ヌガ故ニ、本案ヲ提出スル譯デアリマス、抑朝鮮統治ノ大本ハ、明治大帝ノ煥發シ給ヘル詔勅ニ瞭カデアリマシテ、復タ詔勅ヲ要シマセヌ事デアリマス、十年ノ治績ニ見マシテモ、一波治リテ一難來ル所以ノモノハ、之ヲ遠因ト致シマシテハ、兩國併合ノ當初、其處置ノ宜シキヲ得ザリシ事

モ亦數フベキ一デゴザイマセウ、併ナガラ之ヲ近因ト致シマシテハ、武人治ニ臨ムニ苛酷ヲ以テシ、表面ニ現ハレタル反抗ヲ鎮壓スルニ專ラニシテ、其中ニ在ル所ノ不平不滿ヲ除去シ、福利ヲ圖リ、以テ我皇ノ德澤ニ悅服セシムルノ策ヲ缺イタト云フコトガ、主ナル原因ト認メナケレバナリマセヌ、(拍手起ル)合邦ノ政策ニ就キマシテハ、先進國ノ歴史ニ此間ノ消息ヲ詳ニ語リ、事實ハ雄辯ニ致シテ居ル譯デアリマス、一昨年ノ騷擾以來、輿論ハ武官制度ノ撤廢ヲ根本義ト致シテ論議致シマシテ、遂ニ同年八月十九日改革ノ大詔發セラル、ニ先ダチマシテ、長谷川總督ハ其責ヲ引イテ職ヲ退キマシタ、茲ニ更始一新、必ズヤ人心ヲ新タニスベク、世人ハ多クノ期待ヲ持ッテ居ラデアリマス、然ルニ事實ハ全ク裏切ヲシテ居リマス、其第一ハ時代錯誤ノ人選ト、總督ノ出處ヲ恣リタル事デアリマス、既ニ制度ヲ變革シ、時代ニ順應スベク文化政策ヲ行ハントナラバ、其意義ヲ徹底ナラシムル爲メニ、名ニ於テモ正シク、同時ニ實ニ於テモ正シクナケランケレバナラヌデアリマス、然ルニ齋藤實氏ヲ起用セシト云フガ如キコトハ、名實共ニ失ヒタルモノト批評致シテ居ル譯デアリマス、(拍手起ル)之ガ實ニ第一誤謬ノ端ヲ發シタ事デアリマス、而モ政府ハ此任命ニ對シ、釋明ヲ發スルノ滑稽ヲ演ジテ居リマス、其當時新聞紙ニ依ッテ公ニセラレタル釋明ニ曰ク、朝鮮總督ハ軍人ガ任命セラレタル場合モ、軍職トシテハ非ズシテ、文官トシテ就任スルコト、ナリ、齋藤大將ニ於テモ大將トシテハ非ズシテ政治家トシテナリ云々ト言ハレテ居ル譯デアリマス、果シテ政治家トシテ其材ヲ用ントナラバ、何故ニ軍職ヨリ退隱シタル公敵、社會、陰人ヲ現役ニ復スルノ必要ガアッタデアリマセウカ、(拍手起ル)若又舊官制上已ムヲ得ザル所ノ任命デアルトシタナラバ、何ガ故ニ八月十二日ノ任命、而モ旬日ヲ出ズシテ、其同月ノ十九日ノ新官制ノ發布ト共ニ任命セラレシモノデアリマシタカ此事ハ總テ治鮮上ニ一大障礙ヲ來スノ原因トナッテ居リマス、其反響ハ如何デアリマシタカ、當時御用新聞ノ京城日報ノ其態度、及新聞電報ノ報道シタル所ヲ綜合シテ見マシレバ、齋藤總督任命ノ報アリ、御用紙京城日報ハ頻リニ之ヲ打消シ、其虛ナル旨ヲ以テ、動搖ヲ抑ヘテ居リマシタ、併ナガラ愈々、事實ナルニ及ビテハ、唯ダ沈黙致スバカリデアリマス、鮮人ハ、官制ヲ改革シテ尙ホ武官ヲ任命セル政府ノ不眞面目ヲ非難シ、先ツ青年團ノ奮起スルアリ、冠履顛倒ノ極ト言ヒ、自家撞著ヲ論難シ、羊頭狗肉ノ甚シキモノト異口同音ニ、武官政治ニ厭キタル吾等ハ、又齋藤大將ノ任命ヲ見ル吾等ハ、其爲人ヲ知ラザルモ、唯ダ「シーメンズ」事件ノ

海軍大臣タリシコトヲ記憶スルノミ、斯ノ如ク熱罵シ、斯ノ如ク冷笑致シテ居リマシタ、果セル哉、九月二日新總督ハ無前ノ警戒威壓ヲ以テ著任ヲ致シマシヤ、南大門ノ爆彈事變アリ、其當時東京驛「ホテル」ニ滞在致シテ居リマシタ宋乘峻氏ハ、此報ニ就テ何ト批評致シテ居リマス、其批評ニ曰ク「有識階級ハ無謀ナル舉ニ與ヒシナイ、穩健ナル一派鮮人ト雖モ、新總督ニ對シテハ既ニ信賴ヲ持タナイ、何故ナラバ今回ノ詔勅ノ御趣旨、官制ノ趣意ヲ事實ガ裏切リテ居ルカラデアル」、總督赴任前ノ遺方ガ、政策ヲ誤リテ居ルト批評致シテ居リマス更ニ第二ハ治鮮策動搖シ、稅政隨處ニ起リテ居ル有様デアリマス、齋藤總督ノ談ニ依レバ朝鮮ニ緣故ハ薄イ、會テ大正二年ノ春頃ニ、唯タ一回朝鮮ニ足ヲ停メタコトガアルノミデアリ、何等ノ理解ヲ持タナイ、水野總監亦然リデアリマス、任地審カナラズシテ而シテ、事功ニ急ナルノ餘リ、憲兵制度ノ撤廢、自由解放ノ政策等其運用ヲ誤リ、結果ハ悉ク蹉躓致シテ居リマス、(「ノウ」)「ヒヤ」(「教育ノ方針ト云ヒ、産業政策ト云ヒ、調査ニ名ヲ藉リ基礎ハ未タ定ラズ、任ニ在ルコト既ニ一年有半以上ニ達シ現レ來ルモノハ醜怪ナル事實ノミデアリ、過日ノ當議場ニ於テ、朝鮮通ナル私ノ友人政友會ノ牧山耕織君ノ所論モ承リマシタガ、遺憾ナカラ内容甚ダ之シクシテ、其要領ヲ申シマシレバ唯ダ斯様デアリ、現内閣ハ植民統治策ニ努メテ居ル、官制改革モ英斷ヲシテ、寺内總督マデノ過去十年ノ治鮮策ハ財政經濟ノ消極的持久政策ノ施設ノ爲メ、經營開發遲滞ヲ來タセシガ、現内閣成立後ハ大ニ積極方針ヲ執リ、大正九年度ノ豫算一千万圓ヲ中央國庫ヨリ補助シ、十年度ニハ更ニ一千五百万圓ヲ増加シ、開發施設ヲ爲シ云々トアルノミデアリマス、之ガ爲メニ斯ノ如キ治績ガアル、斯ノ如キ事項ガアルト云フコトニ對シテハ、具體的ノ御話ハ一モアリマセヌ、唯ダ調査ト云フコトノミデアリマス、會社令ヲ撤廢シテ、資金ノ連絡融通ヲ計シタト云フヤウナコトモ御演說中ニアリマシタガ、此資金ノ連絡融通ヲ計ルト云フコトガ、反面ニ於テ其宜シキヲ得ズシテ、却テ惡政醜聞ガ此間ニ流レテ參ッノデアリマス、(拍手)我黨ノ山道裏一君ノ演說ニハ斯様ニ指摘シテアリマス、一體文化政策ヲ施サザル以前、寺内總督、長谷川總督ノ時代ニハ、統治其モノニ對シテハ、相當ノ非難モアリ攻撃モアリマシタガ、未ダ會テ醜イ聞キ苦シイ事件ハ無カッタノデアアル、然ルニ文化政治施カレテ以來、官有地拂下事件、營林署拂下事件、或ハ輕便鐵道ノ事件、取引所事件、官民雙方ニ涉ル幾多ノ非難ハ數限リナイ程アッテ、或ハ役人ニシテ役人

ノ體面ヲ汚ス行爲ヲシテ居ル幾多ノ事實ガアル、斯ウ明言致シテ指摘シテ居ルノデアリマス、憲兵制度ノ撤廢ノ如キ、其運用宜シキヲ得ザルガ爲メニ、服ハ變リマシテモ中味ハ同ジデアリマス、而シテ一道千人ノ憲兵ヲ以テ、其治安ヲ維持シテ居リマシタモノガ、十三道一萬三千人ノ憲兵、今日ハ二万人以上ノ巡查ヲ以テシテモ、尙ホ維持スルコトガ出來ナイト云フ狀態デアリマセヌカ、(拍手)而シテ國庫ヨリ中央國庫ヨリ補助致シテ居リマスル所ノ國費ノ大部分ハ、是等ノモノニ費サレツ、アル譯デアリマス、而シテ更ニ永井柳太郎君質疑ノ朝鮮自治ニ關スル要求、中央地方政治ノ諮問機關ノ設置、朝鮮内地雙互關稅ノ關係等、數項ニ互リマシタ質問ハ、實ニ此場合總督トシテハ一言ナケレバナラヌモノデアリマス、就中關稅問題ノ如キニ至リマシテハ、政友會ノ鈴木錠藏君ハ、此間ノ消息ヲ審ニサレテ居ルコト、思ヒマス、關稅定率改正ニ關スル法律案、此委員會ニ於テ大塚常三郎君ノ答辯、其政府委員トシテノ答辯ニハ、大正九年限りノ廢止スル、又「朝鮮ノ新施設」ト題スル冊子ニモ此事ガ明瞭ニ記載サレテアリマス、然ルニモ拘ラズ、大正十年度ノ豫算ニ記載サレテアリマス、歲計ニ計上サレテ居ル譯デアリマス、事實ハ全ク裏切リテ居ル譯デアアル、所謂二枚舌トモ稱スベキ所ノ茲ニ事實ヲ見ル譯デアリマス、而モ是等ノ重大ナル質問ニ對シテ何等ノ答辯ナク、其時ノ狀態ハ如何デアリマスルカ、徒ラニ與黨ノ諸君ガ騷擾シテ、而シテ此質問ヲ沮シヤト致シタノデアリマセヌカ、大ナル失態ヲ重ネテ居ル譯デアリマス、(質問ノ時機ガ惡カッタ)ト呼フ者アリ、武官總督ノ時代ニ於キマシテハ、善意ノ惡政ト評シテ居リマシタガ、新總督ノ政治ハ、惡意ノ惡政ナリト彼等ハ評シテ居リマス、(拍手起ル)合邦ノ大事業ヨリ今日ニ至ル迄、深ク思フ此ニ致シテ居リマス内田良平君ガ「吾々ニ致シマシタル此「朝鮮統治問題」ニ就テ」ト題シマスル一小冊子ハ、深ク此間ノ事情ヲ詳ニシ、治鮮策上最モ聽クニ足ルモノト考ヘマスル、私ノ所論ヲ進メマスル代リトシテ、茲ニ内田良平君ガ心血ヲ以テ原總理大臣、及田中、野田兩相ニ送リマシタル書ヲ朗讀致シテ見マスル、其文ニ曰ク「朝鮮人ノ排日感情ヲ一掃シ同化ノ實ヲ舉ゲント欲セバ人心惡化ノ原因ヲ討テ彼等ヲシテ必ラズ先ヅ其心ヲ安センセシメ而シテ後彼等ヲシテ爲政者ニ信賴スルノ念ヲ起サシメザル可ラズ凡ソ政ハ信無クシテ行ハレズ今ヤ鮮人等我が政府ノ一々合邦當初ノ期待ニ反スル結果ヲ見大ニ憤恨シテ理論ヲ超越セル感情ノ激動トナリ日本ヲ信賴スル念毫髮モ存セザルノミナラス却テ嫌忌反抗スルノ狀殆ド其極ニ達シツ、アリ

故ニ刻下ノ急務ハ爲政者ガ彼等ノ感情ヲ融和シ日本ヲ嫌忌スルノ念ヲ驅逐スルヲ措キテ他ニ求ムル可ラズ然レドモ是ニ處スルノ途ハ尋常手段ヲ以テシテハ到底克ク彼等ニ満足ヲ與ヘ其反感ヲ一掃セシムル能ハザルナリ蓋シ感情融和ノ道ハ鮮人登用、待遇無差別一般人民ヲシテ些ノ壓迫ヲ感ズル事無カラシムルニ存ス同時ニ行ハザル可カラザルモノハ鮮人生活ノ保障是ナリ、生活ノ保障ニシテ確立センカ彼等ノ信賴心ハ湧然トシテ起リ同化ノ端始メテ此ニ發生スルニ至ルベシ由來鮮人生活ノ脅威ハ田制ノ頽敗ニ在リ之レ合邦以前鮮民ノ忍能ハズト爲セシ所ニシテ合邦後多少ノ改革行ハレント雖モ諸種ノ事情ハ彼等ノ生活上何等裨益スル所無カリシ爲、彼等ハ耕地ノ滅失ニ由リテ益、生活不安ノ狀態ニ陥リ、年々四方ニ離散シツ、アリ故ニ是等ニ對シテ驛田屯土ノ如キモノヲ直接從來ノ小作人ニ拂下ゲヨリモ人心ヲ安センセシムルニ效果ヲ奏スベキ良法ナリ昨年鮮人騷擾以來總督府ハ漸次彼等ノ自由ヲ解放シ銳意其治ヲ圖リシト雖一事ヲ弛フスレバ忽チ一難ヲ生ジ進退之レ窮スルノ狀態ニ陥リタリ其然ル所以ノモノハ總督府先ヅ自己ノ威信ヲ立テズシテ徒ラニ自由ヲ鮮人ニ與ヘ其歡心ヲ求ムルニ急ナリシガ爲メナリ而シテ其結果ハ憲兵制度ヲ廢スレバ軍隊ノ力ヲ借ルニ非ラザレバ其治安ヲ維持スル能ハズ言論ノ自由ヲ許セバ忽チ當局攻撃排日鼓吹ノ新聞紙ト化シ遂ニ母國ニ迄モ危險ヲ感ゼシムルガ如キ事件ヲ發生シ已ムヲ得ズシア再び取締ヲ嚴ニスレバ鮮人ヲシテ益、壓迫ヲ感ゼシムルガ如キ狀態ヲ呈スルニ至レリ此ノ如ク本ヲ治メズシテ徒ラニ其末ヲ追フノ政策ニ齟齬タランニハ偶、以テ鮮人ヲシテ總督政治ヲ輕侮セシムルニ過ギザルノミ、總督府ニシテ眞ニ克ク自己ノ威信ヲ立テ統治ノ任ヲ全フセント欲セバ先ヅ其賞罰ヲ明ニシテ荷クモ功勞アルモノハ斷ジテ之ヲ沒スルガ如キ事アルベカラズ功勞アルモノニ對シ棄テ、顧ミザランカ爰ゾ其信賴ヲ求ムル事ヲ得ンヤ今事實ニ就テ之ヲ見ルニ明治十六年以來鮮人ノ親日主義ヲ抱キ其主義ノ爲メニ殉ゼシモノ決シテ少ナカラズ而シテ其遺族ハ何レモ何等願ミラレザルナリ偶、尙生存セル志士ニ至リテモ冷遇酷待往時日本ト深甚ノ關係アリシモノトハ思ハレザルノ現狀ニ在リ如此ニシテ彼等ヲシテ其恨ヲ抱カシメザラント欲スルモ能ハザルニ非ズヤ彼等ガ日本ニ信賴セザルノミナラス舉ゲテ嫌忌スルニ至レルモノ固トニ故ナキニアラザルナリ」ト書イテ居リマス、(拍手起ル)要スルニ第一齋藤總督ノ出處ヲ誤レル時代錯誤ノ爲メニ、文化政策ハ根本ニ動搖シ、適從ス

ル所ヲ知ラザルト云フコト、第二政令之ガ爲メニ行ハレズ威
信失墜シテ早ク既ニ批政ヲ見ル、此二點ガ只今申上デタ
大要デアリマス、齋藤總督ニシテ良心ヲ有シ、心曠ノ鼓動ヲ
感ゼラル、ナラバ、須ク自省ヲ表現セラレテ可ナリト信ジマ
スルモノデアリマス、今更ニ施政ノ末ヲ論ジ、之ヲ批評スルガ
如キハ、山容ヲ整ヘズシテ其河川ノ流域ヲ批判スルト同様
デアルト考ヘマス(拍手起ル)私ハ爰ニ一言ヲ附シマス、若
シ黨利黨勢ノ資源ヲ圖ルニ汲々トシテ、中央並ニ地方政治
ノ荒廢ヲ念トセザル政黨アリトシテ、其威力ヲ以テ機會ヲ
利用スルナラバ、今日ノ如キ齋藤總督ノ立場ニ於テ、隨處
ニ彼ノ公盜ヲ稱スル輩簇出スルニ至ルベク(拍手起ル)斯ク
テハ國政ノ爲メニ痛嘆スベク、又人ヲ誤ルノ根本デアルト考
ヘマスルガ故ニ、此覺醒ヲ希望スルモノデアリマス、諸君ノ
御賛成ヲ請ヒマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 木下謙次郎君

○議長(與繁三郎君) 三枝君、成ベク御自身ノ席ニ著カ
レルコトヲ望ムマス

○木下謙次郎君 本案決議ノ注意ハ三點デアリマス、第
一點ガ二月二十五日朝鮮統治ノ問題ニ就テ、本議場ニ於
テ討議ノ際ニ、齋藤總督ガ當議場ニ出席シナカッタ、或ハ途
中ニ退席シタト云フコトガ非難ノ一デアリマス、第二ハ其議
場ニ於テ總督ガ何等意見ノ開陳ヲシナカッタト云フコトデア
リマス、第三ハ一般ノ朝鮮統治ニ關スル不信任ノ批判デア
リマス、第一ノ出席ノ有無ノ問題デアリマスルガ、此問題ハ
單純ナル形式論デアリマシテ(ノウ)官僚臭味ノ時代
ニ於テハ、斯様ナ事ガ問題ニナツタコトガアルノデアリマスガ、
苟モ新時代ヲ代表スル大政黨ノ言議トシテハ、如何ナモノ
デアリマセウカ、殊ニ出席ノ有無ヲ以テ其人ノ誠意ヲ疑フト
スルナラバ、諸君ノ中ニモ隨分御缺席ノ御方ガ多イヤウデア
リマスルカラ(ヒヤ)誠意ノ問題ハ如何デアリマスカ、
殊ニ諸君ノ總理タル加藤子爵ガ、貴族院ノ議席ニ御出席
ニナルコトハ甚ダ少ナイト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス
ガ(問題ガ違フ)呼フ者アリ、貴族院ノ議席ニ出席ノ無
イコトガ、直チニ加藤子爵ノ誠意ヲ疑フト云フコトヲ斷定ス
ルコトハ、是ハドウモ早計デアラウト考ヘマス(ヒヤ)私
ノ如キ形式論ヲ以テ當議場ノ問題トスルコトハ、甚
ダ好シカラヌヤウニ考ヘルノデアリマス、(ヒヤ)拍手又
第二ノ意見ヲ開陳シナカッタト云フコトガ問題ニナツテ居
ルノデアリマスルガ、二十五日ノ議場ニ於テ討議サレテ居リマ
シタ問題ハ、或事ヲ議會ガ行ハントスルコトニ就テ討議ヲ致

シタノデアリマシテ、政府或ハ總督府ニ直接ノ關係ナキ事
デ、衆議院ニ議席ヲ

○議長(與繁三郎君) 長官退キ粕谷副議長代リ著席

有セザル所ノ政府ノ一ノ官吏ガ、議院内ニ於ケル決議ニ對
シテ可否ノ容喙ヲ爲スコトハ、寧ろ議院ノ權威ノ上ヨリ、餘
リ好マシカラヌ事デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、(拍手)齋
藤總督ガ自重シテ發言ヲ差控ヘラレマシタコトハ、何等非
難スベキ理由ニハ相成ラヌト私ハ信ズルノデアリマス、(拍手)
若シ諸君ガ總督ノ意見ヲ徵スル必要ガアルナラバ、總督ノ
出席シテ居リマスル際ニ、諸君ハ宜シク通告ヲシテ置イタラ
宜イデアハナイカ、其通告ガ議院法四十八條ノ規定ニ依ラザ
ルコトヲ理由トシテ、總督ハ發言ヲ拒ムモノデアリマシタ
マス、寧ろ發言ノ機會ヲ得タルコトヲ欣ブデアラウト考ヘル
デアリマス、然ルニ諸君ハ出席中ニハ何等ノ通告ヲモ爲サズ、
退席後ニ至テ永井君ノ如キハ俄ニ此演壇ニ馳登ラテ、(俄
カデハナク)呼フ者アリ、足ガ御惡イカラ俄デハナカッタ、(笑
聲起ル)是ハ取消シマスルガ、此演壇ニ御登リニナリマシテ、
質疑ノ内容ヲ急ニ一變シテ、最初提議者ニ對スル質疑デア
ルベキモノヲ、俄ニ其内容ヲ一變シテ、總督ニ對スル彈劾カ
質問カ分ラヌヤウナ御演說ガ、タノデアリマスルガ、諸君ハ
總督ニ對シテ發言ノ機會ヲ與フルコトヲ爲サズシテ、而シテ
發言シナイノガ惡ルイト言フノハ、是ハドウモ諸君ノ方ガ御
無理デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、(拍手起ル)逃ゲタ
ノハドウカト呼フ者アリ)諸君、世ノ中テ對手ノ不在ヲ見
計ラテ、隨分大法螺ヲ吹ク人ガアリマス、(笑聲起ル)世俗ニ
之ヲ名付ケテ陰辨慶ト申シマスガ、(拍手起ル)私ハ永井君
ハ必ズシモ陰辨慶デアラウトハ考ヘマセウガ、併ナガラ本日
提案サレタ所ノ此彈劾案ノ理由ガ、餘リニ薄弱ナル點ヨリ
考ヘテ見マスレバ、(ソナナ事ヲ言フ資格ガアルカ)ト呼フ者
アリ)如何ニモ陰辨慶ノテレ隱シハナイカト思ハレル點ガ
アルコトハ、甚ダ遺憾ニ思フ次第デアリマス、(拍手)第三ニ
一般統治ノ問題デアリマスルガ、此問題ハ小山君大キイ聲
ヲ御出シニナリマシテ、何か六ケイイ書物カ何か朗讀ナサ
イマシテ、大ニ威勢ヲ御作りニナリマシタガ、要スルニ是ハ今
少シク文化政策的ニ朝鮮ヲ治メロト云フ議論デアルノデア
リマス、今少シク「ハイカラ」ニ朝鮮ヲ治メテハドウカ、斯ウ云
フ議論ノ趣意ハ承ルノデアリマスガ、此議論ハ私甚ダ朝鮮
ノ事ニ無學デ御對手が出來ヌカラ存ジマセウガ、後トカラ朝鮮
ノ事ニ精通ヲ致サレテ居リマスル同僚山崎君ガ、此演壇デ十
分蘊蓄ヲ披瀝シテ御對手ニナル答ニナツテ居リマス、隨テ私
ハ重複ヲ避ケル爲メニ、統治問題ノ論議ヲ差シ控ヘマシテ、

茲ニ加藤子爵ノ(即チ諸君ノ總理デアアル所ノ加藤子爵ノ
朝鮮統治ニ關スル意見ヲ引用シテ、諸君ノ議論ト對照スル
コトヲ御許ヲ願ヒタイト思フノデアリマス(拍手)加藤子爵
ノ朝鮮統治ニ關スル意見ハ、昨年十月七日東北大會ニ於
ケル演說ノ一節ニ發表致サレテ居リマス、又今年一月二
十一日ノ憲政大會ニ於ケル演說ニ於テモ發表サレテ居
リマス、私ハ之ヲ朗讀致シマシテ、諸君ノ記憶ヲ喚起シヤウ
ト考ヘマス、(拍手)「必要ナシ」ト呼フ者アリ)能ク御聽ヲ願
ヒマスガ、(能ク聽ケルモノカ)「靜ニ聽キ給ヘ」ト呼フ者アリ
「政府當局ハ將來朝鮮ニ自治制度ヲ行フヲ目的トシ鮮人ヲ
シテ漸次自治ニ慣熟セシムルガ爲メニ曩ニ地方制度ニ改
革ヲ加ヘタリ是余ノ意ヲ得タルモノニシテ」余ノ意ヲ得
タルモノニシテ自今鮮人ノ慣熟ニ伴ウテ漸次完全ナル自治
制度ノ施行セラル、ニ至ランコトヲ望ムモノナリ)現政府ノ
方針ニ全然賛成ヲ致シテ居リマス、一月二十一日ノ大會ニ
於ケル演說ハドウデアアルカ(寺内總督時代ニ於ケル極端ナル
武斷主義壓迫主義ノ結果民心屈折シテ鬱勃タル不平ヲ
懷キ而從腹背深ク政府ヲ怨ムニ至レル折柄現内閣ノ時代
ニ至リ一氣ニ所謂文化政策ナルモノヲ聲明實行シタルガ爲
メ深ク鮮民ノ輕侮ヲ招キ從來鬱結シタル不平一時ニ勃發
シタルモノナリ)御聽ニナリマシタナラバ御分リデアリマセウ
ガ、昨年十月七日ニ於ケル演說ノ發表ハ、全然現政府ノ方
策ニ賛成デアリマス、一月二十一日ニ於ケル意見ノ發表ハ、
現内閣ニ大體ハ賛成デアリマスルガ、若シ反對ガアルトスル
ナラバ、現内閣ハ文化政策的ニ早ク實行シ過ギタト云フノ
デアリマス、(ノウ)是ガ現ニ書イテアリマス、此意味ヨリ
言ヘバ、諸君ノ現政府ニ反對スル距離ヨリモ、現政府ニ
反對スル距離ヨリモ、諸君ノ議論ハ諸君ノ總理ノ意見ニ反
對スル距離ノ方ガ遠イノデアリマスカラシテ、(拍手起ル)諸
君ガ現政府ニ反對スル前ニ當テ、先ツ諸君ノ總理ニ、反對
シナケレバナラヌト云フ結論ニ相成ルノデアリマス、(拍手起
ル)「ヒヤ」シテ見レハ諸君ノ議論ハ此所デ大キイ聲ヲ御
出シニナツテ御力味ニナルケレドモ、諸君ノ總理トハ矛盾撞
著ノ議論デアアル、矛盾撞著ト謂ハナケレバナラヌ、諸君或
ハ之ニ就テ多少ノ御立腹ガアルカモ知ラヌガ、併ナガラ矛盾
撞著ハ此問題ノミデハナイノデアリマス、諸君ノ此議會ニ於
ケル行動殆ド狂態ノ極メテ居ル、(拍手起ル)「ヒヤ」或
ハ決議ニ名ヲ藉リ、或ハ質問ノ名ヲ藉リ、
「狂態トハ何ダ」無禮ダ「取消セ」ト呼フ者アリ其
他發言一時ニ起リ議場騷然)
○副議長(粕谷義三君) 靜ニ——靜ニ

○木下謙次郎君(續) 諸君、諸君、諸君、申上ゲマス、申上ゲマス、ドウモ「狂態」ト云フ言葉が御氣ニ障リマシタト見エマシテ、議場ノ混亂ヲ招キマシタコトハ私ハ恐縮ノ至デアリマスカラシテ私ハ——若シ諸君が御氣ニ障ルナラバ、此「狂態」ト云フ言葉ヲ取消サウト思ヒマス、ドウソ御安心ヲ願ヒマス

〔拍手スル者アリ發言スル者多シ〕

○副議長(粕谷義三君) 御静ニ願ヒマス——只今木下君ハ「狂態」ト云フ言葉ヲ取消サレマシタ

○木下謙次郎君(續) 申上ゲマス——申上ゲマス……

○副議長(粕谷義三君) 只今木下君ハ……〔議場騒然〕
静ニ御聽ナサイ——静肅ニ願ヒマス——三枝君ニ退場ヲ命ジマス

○木下謙次郎君(續) 私ノ言葉が甚ダ極端ニ失シマシタ爲メニ、議場ノ混亂ヲ招キマシタ段ハ恐縮ノ至デアリマス、「狂態」ト云フ言葉が御氣ニ障リマシタナラバ取消サウト思ヒマス——取消シマス、併シ「狂態」ト云フ言葉ハ取消シマシタガ、併ナガラ加藤總理ノ意見ト諸君ノ院內ニ於ケル行動ノ矛盾著アルト云フコトハ、取消ス必要ガ無イデアリマス、(拍手起ル)私ハ世ノ中ニハ甚ダ惡イ言葉ガ知リマセマカ、不思議ナ政黨ガアルモ、デアルト考ヘテ居ルデアリマス、政黨ノ總理——政黨總理ナルモノハ、選舉ノ時カ何カニ必要ガアルデアラテ、平常ノ主義政策ノ上ニ於テハ、黨員ト風牛馬相關セヌト云フノハ、不思議ナ政黨デアルト思フデアリマス、(拍手起ル)ソレニ諸君ガ御異議ガアリマシナラバ、少シ脱線ノ氣味デアリマスケレドモ、證據ヲ爰ニ上ゲテ諸君ノ反省ヲ促サウト思ヒマス、(默レ)ト呼フ者アリ)少シ御聽ヲ願ヒマス、此所ニ證據ヲ持テ居リマス、(問題外)ト呼フ者アリ)問題外デアリマセヌ、結論ヲ御聽ナサレバ分リマス、先ゾ私ノ演説ノ結論ヲ得ル爲メニ、加藤總理ノ演説ヲ批評シテ、之ヲ諸君ノ行動ニ對照シテ、以テ諸君ノ反省ヲ促スコトヲ私ノ演説ノ結論ニシヤウト思ヒマス、(何ダソレハ)脱線ダト呼フ者アリ)多少……

〔反省ヲ促ス必要ハアリマセヌ〕ト呼フ者アリ、其他發言スル者多シ

○副議長(粕谷義三君) 静肅ニ……

○木下謙次郎君(續) 多少御耳障リカハ知レマセヌガ、暫ク御清聴ヲ願ヒマス、(脱線ヲ脱線ダト呼フ者アリ)御聽ナサイ、(聽ケナイ)「ヤルベシ」(脱線トハ何ダ)「脱線ヲ標榜シテ演説スル奴ガアルカ」ト呼フ者アリ)御聽ナサイ

○副議長(粕谷義三君) 静肅ニ——静肅

〔「下レ下レ」默レ「ヤルベシ」〕ト呼ヒ拍手スル者アリ(議場騒然)

○木下謙次郎君(續) 先ゾ「拍手」「下レ下レ」ト呼フ者アリ)加藤憲政會總理ノ總括的政治意見ハ、加藤總理ノ此演説ニ依リ批評致シタイト思ヒマス、此主意ト諸君ノ行動ヲ對照シタイトデアリマス、(議場騒然)諸君ハ結論ヲ御聽ニナレバ分ルデアリマス……

〔議長々々〕「脱線々々」ヤリ給ヘヤリ給ヘ(降リロ降リロ)馬鹿止メヌカト呼フ者アリ(議場騒然)

○木下謙次郎君(續) 加藤總理ノ演説ハ甚ダ多岐ニ涉テ居リマスガ、演説ノ順序ニ依リ申上ゲマス、(議場騒然)「第一日英同盟ノ所論ヲ見ルニ日英同盟ハ適當ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ繼續スベキヲ主張スルモノナリ」云々、此議論ハ現政府ガ非公式ナガラ、或機會ニ於テ發表シタル意見ト少シモ變リガナイデアリマスカラ、日英同盟ノ問題ニ就テハ、加藤子爵ハ現政府ニ賛成ヲ致シテ居ルト云フ證據デアリマス、ソレカラ支那問題(議場騒然)對支問題デアリマスガ支那問題ニ對シテ加藤子爵ハ斯ウ云フコトヲ言フテ居リマス、(現内閣ハ幸ニシテ今日ニ至ルマデ不偏不黨内政不干渉ノ主義ヲ採リツ、アリ是固ヨリ不可ナシ)云々、即チ支那問題ニ就テモ加藤子爵ハ現政府ニ賛成ヲ致シテ居リマス、(議場騒然)

○副議長(粕谷義三君) 静肅ニ……

○木下謙次郎君(續) ソレカラ内政問題ニモ色々議論ガアリマスガ、政友會ノ政策ノ四大政綱ト云フモノニ色々ノ批評ヲ加ヘテ居リマスガ、是モ結局賛成ト云フコトニナリテ居リマス、(議長々々)ト呼フ者其他發言者多シ)尙又一月ノ憲政會ノ大會ニ於ケル演説ヲ見ルニ、國際聯盟軍備協定問題、加州排日問題、總テ現政府ノ政策ニ賛成致シテ居ルデアリマス、ソレカラ西伯利亞問題ニ就テモ、加藤子爵ハ撤兵論者ト云フコトニナリテ居リマスガ、事實ハ左様デアリマセヌ、現ニ此演説ヲ見レバ斯様ナコトニナリテ居リマス、(第一一回ノナエック救援ノ目的ヲ達シタル時最初ノ宣言ニ從ヒ速ニ撤兵スルカ否ラズンバ大軍ヲ出シテ撤底ノニ少クトモ東部西伯利亞過激派ヲ掃蕩シ有カナル統一的反過激派ノ政府ヲ樹立スルカ二者其一ヲ擇ムベカリシナリ)トアリマス、即チ西伯利亞問題ニ就テモ加藤子爵ハ撤兵論者ニ非ラズ、時ノ宜シキニ從テ兵ヲ用井ルト云フ趣旨デアリマスカラ、此方策ニ於テモ、現内閣ト全然反對トハ云ハレナイデアリマス、(退場々々)ト呼フ者アリ)若シ加藤子爵ニシテ、主義ノ上カラ現内閣ニ反對ガアリトスラバ、僅ニ普通選舉

ノ問題アルノデアリマスガ、而モ此普通選舉ノ問題モ漸次其方針ヲ改メラレテ、現在ニテハ獨立ノ生計ト云フ條件ヲ固執シ、現行法ト同一ノ主意、即チ現内閣ノ主義ト同一ノ主義ニ同化シ來タコトハ明白デアリマスカラ、主義ノ上ヨリ見レバ、加藤子爵ハ現政府ニ對シテ、反對スベキ政治上ノ根據ハ持テ居ラヌト謂フテ宜イデアリマス、尙ホ此演説ノ他ノ部ニ多少ノ議論ハアリマスガ、財政問題並ニ經濟問題ノ如キハ五ニ水掛論ニ過ギナイモノデ、斯クスレバ宜カクテラウト云フダケデアラテ、其證據ハ無イデアリマスカラ、水掛論ト云フ外ハアリマセヌ、而モ水掛論以外ハ、愚痴ニ非ズンバ泣言ノミデアリマス、(拍手)「馬鹿」ト呼フ者アリ)此演説ヨリ愚痴ト泣言ヲ除キ、且ツ水掛論ヲ取テ除ケバ、演説ノ總テノ題目及趣意ハ、現政府ニ賛成ノ意見ヲ表シテ居ルデアリマス、現政府ニ對シテ、少シモ反對ノ主意ノ見ルベキモノ無シデアリマス、(拍手起ル)斯ノ如クニシテ憲政會ハ反對黨トシテ存在スル理由ガ何所ニアルカ、私ハ反對黨トシテ存在スル理由ヲ疑ウデアリマス、(注意トハ何ダ)ト呼フ者アリ)憲政會ハ本來桂公爵ノ創立ニ係ルモノデアリマスガ、其創立當時ニ於テ、此政黨ノ執ルベキ主義ニ就テ、當時ノ領袖ト稱スル人ト桂公爵トノ間ニ、種々交渉ヤ諒解ガ行ハレマシタ結局此憲政會ノ前身タル所ノ同志會ハ、進歩主義ヲ執ルト云フ方針ガ決定サレタルデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ハバ憲政會ナルモノハ軍閥ヲ保護スル所ノ保守主義ノ政黨デアリナイデアリマス、然ラバ急進主義ノ政黨デアルカト云フニ、諸君ハ急進主義ノ二三ノ黨員トモ分裂ヲ致シテマデ其立場ヲ固守サレテ居ルデアリマスカラ、必ズシモ極端ナル急進主義ヲ抱クモノデアナイコトモ明カデアリマス、急進主義ニ非ズ、或ハ保守主義ニ非ズトスラバ、諸君ノ執ルベキ途ハ決定シテ居ルデアリマス、是ハ何デアアルカト云フニ、私ハ此機會ニ於テ原内閣總理大臣施政ノ方針ニ關スル根本主義ヲ、諸君ニ紹介スルコトヲ必要トスルモノデアリマス、原總理大臣ノ(資格ナシ下レ)ト呼フ者アリ)演説ノ主意ハ、著實穩健ナル自覺ヲ促シ、積極進取ノ國民性ヲ發揮シ、以テ帝國ノ進運ニ貢獻スルコトヲ云フデアリマス、即チ加藤總理ノ言ハント欲シテ言フ能ハザル所ヲ、原總裁先ゾ之ヲ喝破シテ居ルデアリマス、又加藤子爵ノ行ハント欲シテ行フ能ハザル所ヲ、原總理先ゾ之ヲ實行セラレテ居ルデアリマス、故ニ若シ政黨ノ離合集散ガ、政治上ノ主義ノミニ依テ行ハレルモノデアラナラバ、加藤子爵ハ宜シク憲政會ヲ解黨シテ政友會ニ入黨シ、原總理ノ指導ノ下ニ立タナケレバナラ

スト思フノデアリマス、併ナガラ若シモ政黨ノ離合集散ガ或ハ感情ニ依リ、或ハ行掛リニ依リ、或ハ政權爭奪ノ目的ニ依リテ行レルモノデアリナラバ、議論ノ爲メニ議論ヲ作り反對ノ爲メニ反對ヲセナケレバナラヌコトニナルデアリマス、故ニ總理ノ主張ト黨員ノ行動トハ矛盾撞著、統一モ無クレバ條理モナイト云フ結果ニ陥リマス、或ハ彈劾ト云ヒ或ハ決議ト云ヒ或ハ質問ニ名ヲ籍リ、或ハ建議ニ名ヲ籍リ、斯クシテ議會開會中ノ年中行事ト做シ、斯クシテ徒ラ二時局ヲ攪亂シ、國務ノ進行ヲ妨害セントスル狂態ヲ演ズルノデアリマス、私ハ此機會ニ於テ以上ノ所論ヲ述ベテ、諸君ノ反省ヲ促ス者デアリマス、最後ニ一言申上ゲマス、(此時發言スル者多ク議場騒然)最後ニ一言申上ゲマスガ諸君ハ朝鮮總督ニ對シテ、色々ノ理窟ヲ以テ非難攻撃ヲサレルノミナラズ、曩ノ「シーメンス」事件ノ如キモノマデモ持出シテ、人身攻撃ニ涉ル御議論ガアツタデアリマスガ、(此時發言スル者多ク議場騒然)私ハ諸君ニ注意スル事ガアル私ハ「シーメンス」事件ガ宜イト言フノデアリ、(「シーメンス」事件マデ持出シテ齋藤總督ノ攻撃ヲサレルト云フコトハ)此時發言スル者多ク議場騒然)諸君ガ是以上私ノ議論ヲ聽クコトヲ好ミマセヌナラバ、私ノ言ハント欲スル所ハ略、以上ニテ盡キテ居リマスカラ、此以上述べ必要ガアリマセヌ、以上ノ議論ヲ以テ、諸君ノ反省ヲ促スニ十分デアルト思ヒマス、速ニ本案ノ否決ヲ望ミマス

○副議長(粕谷義三君) 次ハ春日俊文君ヨリ、議事進行ニ就テ發言ヲ求メラレテアリマスカラ、之ヲ許可致シマス、春日俊文君

〔春日俊文君登壇、拍手〕

○春日俊文君 只今木下謙次郎君ハ——(此時發言スル者多シ)騒ゲ、根氣ノアルダケ騒イデ見タラドウダ、幾ラデモ騒ゲ、モウ宜イカ……

〔粕谷副議長議長席ヲ退キ與議長復席〕

〔此時發言スル者多ク議場騒然〕

○議長(與繁三郎君) 諸君靜ニ……

○春日俊文君(續) 木下謙次郎君ハ其演說ノ中ニ於テ是カラ脱線ヲスルト云フコトノ前置ヲシテ、新聞ヲ大分搖ッテ居ッタ(ソナナコトハ言ハヌヨ)ト呼フ者アリ、其他發言スル者多シ(何カ言フコトガアルノカ)脱線スルコトヲ前提ニシテ居ル演說ヲ、議長ハ承認サレルノデアリマスガ、之ヲ御尋致シマス、若シソレガ出來ルナラバ、僕モ一日位斯ウヤッテ見セル、何デモナイ話ダ、斯ウヤッテ居ルコトハ脱——線ヲ前提トシテ演說スルコトヲ承認爲サルカ、是ダケノ事ヲ議長ニ御尋致ス

○議長(與繁三郎君) 答ヘマス、議席(御歸リナサイ)春日君ニ答マスガ、私少シク用事ガアリマシテ離席ヲシテ、副議長ノ議長中デアリマシタ、自ら聽キマセナシタダ、今御尋ノ點ニ就キマシテハ、直グ速記ヲ調ベテ後御答致シマス、三木武吉君

〔三木武吉君登壇、拍手〕

○三木武吉君 諺ニ破鍋ニ綴蓋ト云フコトガアル、牛ハ牛連レ馬ハ馬連レト云フコトガアリマス、齋藤總督ノ不信任ノ決議案ノ辯護ヲ爲ス其人ニ配スルニ、政界ノ思想堅實デアアル、大政治家木下謙次郎君ヲ以テシタト云フコトハ、海ニ政友會ノ策戰其宜シキ得、齋藤總督ノ爲メニ、謹シク視意ヲ申上ゲナケレバナラヌト思ヒマス、私ハ此決議案ニ賛成ノ演說ヲ致スノデゴザイマスガ、先ヅ第一ニ定メテ置カケレバナラヌ事ハ、去ル二十五日ノ議場ニ於テ現レタル眞實ノ事實デアリマス、即チ去ル二十五日中野正剛君ガ御提出ニテ、朝鮮統治ノ根本方針ヲ定ムル必要上、調査機關ヲ設置セヨト云フ決議案ノ討議ノ眞最中ニ、其案ニ依リテ、自己不信任ヲモ求ムセラルベキ當面ノ責任者タル齋藤總督ガ、其席ヨリ去ラレタト云フ事實デアリマス、此點ニ就テハ何ノ争モ無イト思ヒマス、第二ハ此齋藤總督ガ議院ヲ去ラレル其以前ニ於テ、我黨ノ永井柳太郎君ガ此決議案ニ賛成ヲ表明スルノ必要上、政府當局ニ對シテ質問ガ致シタト云フ通告ヲ致シテ居ッタ事實デアリマス、此點ニ就テ木下謙次郎君ハ、決議案ヲ提出者ニ對シテ質問スルト云フ申出デアツタト云フコトデゴザイマスガ、是ハ事實ヲ御知リニナラナイカラ、無理カラヌ事デゴザイマスガ、事實ハ明カニ政府當局ニ質問ヲスルト云フコトデアツタデアリマス、此二ツノ事實ノ誤ナキコトヲ前提ト致シマシテ、以下私ハ多少意見ノ在ル所ヲ申述ベテ見タイ(拍手起ル)只今木下君ガ第一ノ問題ニ就テ、御演說御辯護ト致シマシテ、新シイ時代ニ處スル政治家ハ、單ニ當局者ガ居ルベキ場所ニ居ラナイカラト云ウテ攻撃ヲスル如キ事ハ、言葉ハドウ御使ニナツタカ知リマセヌガ、時代後レデアルト云フヤウナ意味ノ御話ガアツタ

木下君ハ御承知デアアルカドウカ知リマセヌガ、古來明君賢相ト云ハレルヤウナ人ハ、士ニ接シ言ヲ聽クコトニハ、終日其息リナキカラ自ら戒メテ居ルノデアリマス(拍手起ル)一嘯二三タビ吐キ、一沐二三タビ其髮ヲ握ルト云フノハ、爲政治家ノ常ニ心得ナケレバナラヌ態度デアリマス(拍手起ル)今日ノ我が政府ノ朝鮮統治ノ現狀ハ如何デゴザイマスルカ、木下君ハ失禮デゴザイマスガ、緣日商人ガ紙ヲ商フカノヤウナ態度デ、紙ヲ振上ゲテ朝鮮統治ノ效能ヲ速記者

ニ御陳述ニナツタ、漏レ何フ所ニ依ルト、如何ニモ效能澤山ノ事ヲ述ベラレテ居リマシタガ、議論ヨリハ統治ノ事實デアゴザイマス、如何ニ木下君ノ雄辯宏辭ヲ以テスルモ、現在ノ朝鮮ヲ天國ノ如クニ言ヒ現ハスコトハ出來マセヌ、現在ノ朝鮮ヲ日本内地ノ如クニ言ヒ現ハスコトハ出來マセヌ、世界ノ人ハ今ノ朝鮮ヲドウ言ウテ居リマスルカ、朝鮮ハ東洋愛蘭デアルト云フ言葉ヲ御聞ニナリマセヌカ、(嘘ダ)ト呼フ者アリ朝鮮ノ獨立黨ハ、極東ニ於ケル「シンフエーン」黨ダト云フコトノ言葉ガ流布セラレテ居ルコトヲ、御聞ニナリマセヌカ、此唯ダ二ツノ言葉——此唯ダ二ツノ言葉ガ、如何ニ雄辯ニ現在ノ朝鮮統治ノ現狀ヲ語テ居リマスルカ、(ヒヤヒヤ)拍手起ル)如何ニ明治大帝ガ東洋永遠ノ平和ヲ保持スル爲メニ日鮮兩國國民ノ同化ヲ圖リ、彼レ千七百萬民衆ノ幸福増進ニ努メラレヤウト云フ大御心ガアツタニ拘ラス、事ハ其御志ト違フ、非常ニ混亂ノ状態ニ在ルト云フコトヲ、最モ雄辯ニ語ル所ノ言葉デアリマセヌカ(拍手起ル)私ハ朝鮮統治ノ内容ニ就テ、多クノ言ヲ費スノ必要ヲ認メマセヌ、斯ノ如ク混亂ニ陥リ、世界ノ耳目ハ、我が朝鮮統治ノ今後ガ如何ニナルカト云フコトニ注ガレテ居ル此際ニ於テ、此議場ニ中野正剛君ノ決議案トナツテ現レテ居ルノデアリマス、山道襄一君ノ贊成演說トナツテ現レテ居ルノデアリマス、永井柳太郎君ノ質問演說ニ形ガ變テデアリマス、此決議案、此演說、此質問、苟モ日本ノ國民ナレバ、誰一人ト雖モ耳ヲ傾ケテ聽カナイ振りノ出來ルハ無イノデアアル、(ノウノウ)拍手起ル)而モ職ニ朝鮮總督ノ任ニ在ル者ガ、當面ノ責任者デアルベキ者ガ、此八釜シイ問題ニ何人モ傾聴ヲ惜マザル此重要問題ヲ前ニ見ナガラ、何ノ所用ノアツタノデゴザイマスルカ、忽然院外ニ去ルト云フノハ何タル不誠意ノ有様デアリマスガ(拍手起ル)私ハ唯ダ是ダケノ事實ヲ以テシテ、齋藤總督ノ朝鮮統治ニ對スル不誠意ヲ断定スルコトガ出來ルト思フ、(ノウノウ)「ヒヤ」(ヒヤ)所謂物ノ一斑ヲ見テ、其全豹ヲ窺フコトガ出來ル、齋藤總督ノ此決議案——過日ノ決議案ニ對スル其態度、之ニ依リテ彼レ齋藤君ノ平常ノ志ヲ窺フコトガ出來ル、元來此齋藤ト云フ人ハ、如何ナル誠意ヲ不斷所持セラレテ居ル人デアルカ、此事ニ就テ詳細ナル御話ヲ致スコトハ、聊カ齋藤君ノ爲メニ御氣ノ毒ナヤウナ心持ガ致シマスカラ、私ハ詳細ノ事ハ申シマセヌ(馬鹿言フナ)ト呼フ者アリ併シ馬鹿言フナ、生意氣ナ事ヲ言フナト云フコトヲ言ハレル以上ハ、馬鹿デナイ、生意氣デナイコトダケハ申上ゲナケレバナリマセヌ(ヒヤ)「ヒヤ」(ヒヤ)「ヒヤ」(ヒヤ)一身上ノ事デアリマセヌ、齋藤總督ガ過去ニ於ケル政治上ノ

御尋致ス

御尋致ス

御尋致ス

御陳述ニナツタ、漏レ何フ所ニ依ルト、如何ニモ效能澤山ノ事ヲ述ベラレテ居リマシタガ、議論ヨリハ統治ノ事實デアゴザイマス、如何ニ木下君ノ雄辯宏辭ヲ以テスルモ、現在ノ朝鮮ヲ天國ノ如クニ言ヒ現ハスコトハ出來マセヌ、現在ノ朝鮮ヲ日本内地ノ如クニ言ヒ現ハスコトハ出來マセヌ、世界ノ人ハ今ノ朝鮮ヲドウ言ウテ居リマスルカ、朝鮮ハ東洋愛蘭デアルト云フ言葉ヲ御聞ニナリマセヌカ、(嘘ダ)ト呼フ者アリ朝鮮ノ獨立黨ハ、極東ニ於ケル「シンフエーン」黨ダト云フコトノ言葉ガ流布セラレテ居ルコトヲ、御聞ニナリマセヌカ、此唯ダ二ツノ言葉——此唯ダ二ツノ言葉ガ、如何ニ雄辯ニ現在ノ朝鮮統治ノ現狀ヲ語テ居リマスルカ、(ヒヤヒヤ)拍手起ル)如何ニ明治大帝ガ東洋永遠ノ平和ヲ保持スル爲メニ日鮮兩國國民ノ同化ヲ圖リ、彼レ千七百萬民衆ノ幸福増進ニ努メラレヤウト云フ大御心ガアツタニ拘ラス、事ハ其御志ト違フ、非常ニ混亂ノ状態ニ在ルト云フコトヲ、最モ雄辯ニ語ル所ノ言葉デアリマセヌカ(拍手起ル)私ハ朝鮮統治ノ内容ニ就テ、多クノ言ヲ費スノ必要ヲ認メマセヌ、斯ノ如ク混亂ニ陥リ、世界ノ耳目ハ、我が朝鮮統治ノ今後ガ如何ニナルカト云フコトニ注ガレテ居ル此際ニ於テ、此議場ニ中野正剛君ノ決議案トナツテ現レテ居ルノデアリマス、山道襄一君ノ贊成演說トナツテ現レテ居ルノデアリマス、永井柳太郎君ノ質問演說ニ形ガ變テデアリマス、此決議案、此演說、此質問、苟モ日本ノ國民ナレバ、誰一人ト雖モ耳ヲ傾ケテ聽カナイ振りノ出來ルハ無イノデアアル、(ノウノウ)拍手起ル)而モ職ニ朝鮮總督ノ任ニ在ル者ガ、當面ノ責任者デアルベキ者ガ、此八釜シイ問題ニ何人モ傾聴ヲ惜マザル此重要問題ヲ前ニ見ナガラ、何ノ所用ノアツタノデゴザイマスルカ、忽然院外ニ去ルト云フノハ何タル不誠意ノ有様デアリマスガ(拍手起ル)私ハ唯ダ是ダケノ事實ヲ以テシテ、齋藤總督ノ朝鮮統治ニ對スル不誠意ヲ断定スルコトガ出來ルト思フ、(ノウノウ)「ヒヤ」(ヒヤ)所謂物ノ一斑ヲ見テ、其全豹ヲ窺フコトガ出來ル、齋藤總督ノ此決議案——過日ノ決議案ニ對スル其態度、之ニ依リテ彼レ齋藤君ノ平常ノ志ヲ窺フコトガ出來ル、元來此齋藤ト云フ人ハ、如何ナル誠意ヲ不斷所持セラレテ居ル人デアルカ、此事ニ就テ詳細ナル御話ヲ致スコトハ、聊カ齋藤君ノ爲メニ御氣ノ毒ナヤウナ心持ガ致シマスカラ、私ハ詳細ノ事ハ申シマセヌ(馬鹿言フナ)ト呼フ者アリ併シ馬鹿言フナ、生意氣ナ事ヲ言フナト云フコトヲ言ハレル以上ハ、馬鹿デナイ、生意氣デナイコトダケハ申上ゲナケレバナリマセヌ(ヒヤ)「ヒヤ」(ヒヤ)「ヒヤ」(ヒヤ)一身上ノ事デアリマセヌ、齋藤總督ガ過去ニ於ケル政治上ノ

御尋致ス

御尋致ス

御尋致ス

御尋致ス

御尋致ス

御尋致ス

御尋致ス

責任、政治上ノ罪惡ニ就テノ事デアリマシテ、決シテ一身上ノ事デアリマセヌ、諸君ガ御記憶ノ通り大正十三年

我海軍ノ爲メニ、又齋藤君ノ爲メニ、事實トナテ現ハレナカッタケレドモ...

院トドウ云フ有様デアリマシタカ、(大浦事件ハドウダ)ト呼フ者アリ)我が光輝アル帝國海軍、ソレニ終生抗フコトノ出来ナイ一大汚點ヲ染メタト云フコトハ、諸君モ御記憶デアリマセウ、我が憲法史上ニ永却未代消スコトノ出来ナイ大キナ刻印ヲ捺シタコトハ、諸君ガ御承知デアリマセウ、(拍手起ル)其事件タルヤ所謂「シメンス」事件デアリマス、所謂海軍收賄問題デアリマス、此海軍收賄問題ハ、其初メ「リヒテル」ト云フ者ガ獨逸ノ裁判所デ懲役二年ノ言渡ヲ受ケタ、ルコトガ、會、外國電報ニ依ッテ日本ノ新聞紙ニ傳ヘラレタ其新聞紙ヲ見タル我黨ノ島田三郎君ガ、事重大ナリトシテ議院ニ於テ之ニ關スル質問ヲセラレタ、其質問ガ動機トナテ遂ニ前ニ申シマシタル大事件ヲ生シタデアリマス、其事件ノ發生シタル當時ニ於ケル、此處ニ居ラレル齋藤總督ノ態度ハドウデアッタカ、如何ナル態度ヲ執ラレテ居リマシタカ飽マデモ海軍ニハ收賄ヲスルヤウナ者ハ無イ、サウ云フ事實ハ無イ、サウ云フ事實ハ斷ジテ無イト云フコトデ之ヲ曲庇シ、甚シキニ至ッテハ、其職責上當然調査ヲスベキ事マデモ調査ヲ爲ササルノ態度ニ出デタ、所ガ此衆議院ニ於キマシテハ、今矢張御同情ニナリ御援助ナサデ居ル政友會ノ諸君ガ、多數デ理ヲ非トシ非ヲ理トシテ、(拍手起ル)「ノウ」ト呼フ者アリ)山本内閣ノ一山本内閣ノ不信任決議モ、一撃ノ下ニ葬リ去ラレルコトニナリマシタケレドモ、正義ノ味方トシテ強キ貴族院ニ於テハ散々ノ憂目ヲ見テ、脆クモ山本内閣ハ倒レル、ソコニ新タニ大隈内閣ハ出來ル、政友會ハ無慘ナル境遇ニ立至ルト云フ、所謂天譴ニ依ッテ山本内閣ト政友會ガ亡ビ去ッタト云フ歴史ガアル(拍手起ル)

「當然ダ」馬鹿ナ事ヲ言ヘト呼フ者アリ) 〇議長(奥繁三郎君) 靜ニ...

〇三木武吉君(續) 其「シメンス」事件ノ一其「シメンス」事件ノ大渦中ニ「シメンス」事件ノ大渦巻ノ中ニツノ大ナル統領ガアッタデアリマス、(拍手起ル)其一人ハ權兵衛山本伯爵デアッテ、其一人ハ實齋藤君デアッテデアリマス、(拍手起ル)當時一般國民ハ穿ッテ致シマシタ、齋藤君モ遠カラズ一遠カラズ海軍收賄犯人ノ連累者トシテ、牢獄ニ投ゼラレルデアラウト噂ヲシテ居ッタデアリマス、(拍手起ル)「ソレガドウシタ」ト呼フ者アリ)其噂ハ幸ニシテ

〇三木武吉君(續) 現ハレナカッタケレドモ、其事情ノ中ニ潛シタル或一ツノ事實ノ爲メニ、齋藤君ハ現役ヲ去ラナケレバナラヌヤウナ憂目ヲ見タト云フコトハ、諸君御承知デアリマセウ、(拍手起ル)諸君ハ一政友會ノ御方ガ、飽迄モ齋藤君ヲ今日ニ至ッテ向ホ庇護シナケレバナラヌト云フ、其間ニ於ケル切テモ切レヌ因縁ノアルコトハ、私ハ承知ヲ致シテ同情ヲ致シテ居ルデアリマス、(拍手起ル)併ナガラ諸君ノ同情、諸君ノ因縁モイ、加減ノ時ニ切ラナイト、再ビ「シメンス」事件ノ時ト、同じ運命ニナルコトヲ警告致サナケレバナラヌ、(拍手起ル)「何ガ警告ダ」不逞鮮人ノ聲色ヲ使フナト呼フ者アリ)斯ノ如キ政治上ノ犯罪人、政治上ノ前科者、此政治上ノ犯罪人、政治上ノ前科者ガ、德ヲ以テ導カナケレバナラヌ我ガ新附ノ民朝鮮人ニ向ッテ我 陛下ノ統治ノ大權ノ御委任ヲ受ケテ向ッテ見タ所ガ、只ダ大權ノ發動ヲ演スノミデアッテ、到底其目的ヲ達スルコトガ出來ナイ位ハ誰デモ分リマス、(拍手起ル)況ヤ一人ガ假令過去ノ罪惡ハアルニシテモ、今日己レノ罪科ニ省ミテ、(罪科トハ何ダ)ト呼フ者アリ)慎シテ其職ヲ執ル位ノ事ヲスルナラバ、尙ホ恕スベキデアアルニ拘ラズ、國々シタモ烏滸ガマシクモ、飽迄モ不誠意、飽迄モ不熱心ナル態度ヲ以テ、千七百万ノ朝鮮人ニ對スルノミカ、吾々日本本土ノ國民ニマデモ對スルト云フコトハ、返シミ、モ此人ノ人格ヲ疑ハナケレバナラヌト思フ、(君ノ人格ヲ疑フ「退場ヲ命ジロ」ト呼フ者アリ)私ハ斯ノ如キ過去ノ政治上ノ罪惡ヲ有セラル、方ガ、假令總理大臣ノ御奏請ガアルト致シマシテモ、其職ヲ御受ニナルト云フコトハ既ニ誤ッテ居ル、(拍手起ル)又御受ニナル心ガアッテモ、之ヲ奏請スル總理大臣ガ誤ッテ居ルト思フ、(拍手起ル)一體官吏ハ如何ナル者ヲ之ニ任ズベキモノデアアル、上ハ大臣宰相ヨリ下ハ判任官ニ至ル迄、飽迄モ官吏ハ廉恥ノ心ニ富シタ人デナケレバナリマセヌ、恥ヲ知ル人デナケレバナリマセヌ、露露聊カデモ貪慾ナ人デアッテハナリマセヌ、(拍手起ル)是ハ道德上カラ申スマデモナイ、法律ノ上ニ於テモ、ソレガ決定セラレテ居ル官吏ノ服務紀律ト云フ 法律ガゴザイマス、其法律ノ第三條ニハ「ソレハ法律デヤナイゾ」ト呼フ者アリ)「官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ行爲アルヘカラス」トアル、苟モ官吏デアアル以上ハ、所謂刀筆ノ小吏ト雖モ、廉恥ヲ重シ、貪汚ノ所爲アルベカラザルモノ

デアルニ拘ラズ、朝鮮統治ノ大任ヲ帶ビ 陛下ノ御委任ニ依ッテ其職務ヲ行フ所ノ此官吏ガ、廉恥ノ心ノ無キ者ヲ以テ任ゼラレ、又其職ニ就クニ至ッテハ、洵ニ私ハ官紀上ノ大問題デアルト信ズルデアリマス、(拍手起ル)既ニ齋藤君其人ガ斯ノ如キ經歷ノ人デアリ、斯ノ如キ精神ノ人デアリ、斯ノ如キ人格ノ人デアリマス、(アノ人ダ)ト呼フ者アリ)斯ノ如キ人格ノ人、斯ノ如キ精神ノ人、斯ノ如キ經歷ノ人ガ、此朝鮮統治ノ大任ニ就ク、其無誠意ニシテ、(貴様ハ何ダ)ト呼フ者アリ)亂暴ナル政治ヲスルコトハ申スマデモデアリマセヌ、衆議院ノ諸君一政友會ノ諸君ト雖モ、此齋藤君ノ過去ノ事、齋藤君ノ人格、齋藤君ノ當時ノ事ニ就テハ、十二分ニ御承知デアリマセヌカ、飽迄モ諸君ガ此明カナル事實ヲ否認シテ、飽迄モ諸君ノ非違ヲ通サントスルコトハ、却ッテ諸君ノ爲メニ利益デナイノミナラズ、(拍手起ル)諸君ト特別ノ因縁ヲ取結バレテ居ル齋藤君ノ爲メニ...

「此時發言スル者多ク、議場騷然)」

〇議長(奥繁三郎君) 武田君、靜ニ

〇三木武吉君(續) 宜シクナイ事デアルト私ハ信ジマスルカラ、諸君ガ切ニ此決議案ニ對シテ贊成ノ意ヲ表セラレンコトヲ希望致シマス、(拍手起ル)

「反對」三木君周章狼狽ノ態顯ムベシト呼フ者アリ)

〇議長(奥繁三郎君) 三木君ニ御照會シマスルガ、只今ノ御演說中ニ、政治上ノ犯罪人、政治上ノ前科者、引續イテ此罪科ト云フ御言葉ガアリマシタカ、刑法上ノ犯罪人ト云フ言葉ト區別サレテ居ルコトハ明瞭デアリマスケレドモ、少シク其人ニ對シテ敬意ヲ缺クヤウニ思ヒマス、(ノウ)「ヒヤ」皆サンニ御判斷ヲ請フデアリマセヌ、三木君ニ照會シテ居ルノデス、三木君、此言葉ヲ取消ス御考ハアリマセヌカ

〇三木武吉君 議長...

「登壇々々」ト呼フ者アリ)

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

〇三木武吉君 議長...

カ天下ニ政治道徳上ノ大罪惡ト云フモノガアリマセウカ、而シテ齋藤君ハ現役海軍大將ヨリ豫備大將ニナラレタト云フコトハ、前後ノ事情ヨリ致シマシテ、此罪科ヲ償フ一ツノ手段デアツカモ知レマセヌガ、ソレノミデハ未ダ其總テヲ償ヒ得タリトハ私ハ信ジマセヌカラ、之ヲ稱シテ尙ホ前科者ナリト云フ言葉ヲ使タノデゴザイマスガ、御惡ケレバ御惡イヤウナ御考ヤラレタラ宜イ、斯ウ云フコトガ政治道徳上ノ犯罪デモ前科デモ無イト云フ風ニ、政治道徳ノ心ヲ痲痺シタル人ハ、御判斷ニ委スヨリ外致方ガアリマセヌ(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 議長ハ其犯罪人デアアルナシノ事實ヲ追窮セズシテ、議場ニ於テ政府委員並ニ議員相互ノ間ニ於テ、彼人ハ犯罪者デアアルト云フコトハ不禮ノ言ナリト認メマス、故ニ三木君ニ取消ヲ命ジマス

○三木武吉君 此際一言致サナケレバナラヌ事ガアリマス

〔登壇々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) マダ許シマセヌ、諸君靜ニナサイ一言ナサルノハ何事ニ就テデスカ

○三木武吉君 只今議長ガ私ニ對シテ、取消ノ命令ヲ御宣告ニナリ、其理由ト致シマシテ、事實ヲ明ニシナイデ斯ノ如キ言ヲ爲スノハ、無禮デアアルト云フコトデゴザイマス

○議長(奥繁三郎君) イヤ私ハサウ申シマセヌ、又事實ノ有無ヲ問ハズ、議場ニ於テ誰某ヲ指シテ犯罪人ト云フコトガ無禮ト云フ

○三木武吉君 政治道徳上ノ犯罪ト云ウコトガ無禮ト云フノデスカ

○議長(奥繁三郎君) 政治上ノ犯罪人——靜ニ諸君御聽ナサイ、政治上ノ犯罪人、政治上ノ罪科者、此罪科ト云フ言葉ガ、無禮ナ言葉デアアルト議長ハ認メマス、ソレデア向ホ三木君ハ政治上ト云ウタノハ、政治道徳上ト云フ意味ガアルト云フ釋明ヲ與ヘラレマシタ、(補足シマシタ)ト呼フ者アリ

○釋明デモ補足デモ同ジ事デスケレドモ、ソレガ論ノ言葉ノ取消ヲ意味シテ居ラレラバ議長ハ、追窮シマセヌ、取消ノ意味トハ認メナイカラ、是ハ無禮ノ言ト認メマス

○三木武吉君 議長、言論ノ自由ヲ束縛スルモ甚シ

○議長(奥繁三郎君) 三木君、何デス

○三木武吉君 議長ノ私ニ對シテ御宣言ニナリマシタ事柄ニ就テ、先刻私ガ其壇上ニ於テ申シマシタ通り、政治上ノ犯罪人、或ハ政治上ノ前科者ト云フ言葉ガアツタトスルナラバ、ソレハ政治道徳上ノ犯罪人、政治道徳上ノ罪科者ト

云フ意味デアアルト云フコトニ補足シタデゴザイマスケレトモ、ソレガ取消テナイト云フナラバ、私ガ政治上ノ犯罪ハ、前科者ト云フタ其言葉ハ、政治道徳上ノ犯罪人、前科者ト云フ意味デアツタト云フコトニ言明致シマシテ、議長ノ取消ノ命令ニ服従ヲ致シマス

○議長(奥繁三郎君) 議長ノ三木君ニ對スル警告ハ、大半御受ニナリヤウニ認メマスカラ、此問題ハ是デ打切りマス——齋藤朝鮮總督

〔政府委員男爵齋藤實君登壇、拍手起ル〕

○政府委員(男爵齋藤實君) 先月二十五日ノ……〔シーメンズドウシタ〕靜ニ聽ケト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 金澤君、靜ニナサイ

○政府委員(男爵齋藤實君)(續) 二十五日ノ議場ニ於キマシテ、議事ニ本員ガ公務ノ爲メニ退席ヲ致シマシタ、他ノ政府委員ニ後ヲ託シテ此處ヲ去リマシタノデアリマス、然ルニ斯ノ如キ問題ヲ惹起シマシテ、甚ダ遺憾ニ存ズルノデアリマス、併ナガラ何モ誠意ヲ缺キマストカ……〔誠意ヲ缺イテ居ル〕ト呼フ者アリ

○政府委員(男爵齋藤實君)(續) 承ルコトモ出來ルノデアリマス、即チ他ノ政府委員モ居リ、承ルコトモ出來ルノデアリマス……〔シーメンズドウシタ〕默テ聽ケト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 靜ニ……

○政府委員(男爵齋藤實君)(續) ソレカラ朝鮮統治ノ事ニ就キマシテ、色々御意見ガアリマシタガ、此事ニ就キマシテハ私共就任以來……〔就任シタノガ間違テ居ル〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ

○議長(奥繁三郎君) 金澤君、發言ヲ禁止シマス

○政府委員(男爵齋藤實君)(續) 一祝同仁ノ御趣旨ヲ奉戴致シマシテ、誠意誠心職ニ從事致シテ居ルノデアリマス、ソレデ今日ノ朝鮮ノ状態カラ申シマシテモ、先刻諸君ノ御話ノヤウナ状態デハナイノデアリマス、朝鮮内地ニ於テハ少クとも靜謐ハ保タレテ、(ノウ)今日迄著任以來、宣言ヲ致シ、實施致シテ居ル所ノ事柄ハ、著々進ミツ、アルノデアリマス、順調ニ進ミ、アル(拍手起ル)唯ダ私ノ所管外ノ事ニ就テハ、往々遺憾ナ事ガアルノデアリマス、是ハ甚ダ遺憾ハ遺憾ト致シマスルガ、是トモソレト、其筋ニ交渉ヲ致シテ、將來ニ於テ斯ノ如キ事ノ無カラシコトヲ期シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ山道君ノ御説ノ中ニ、朝鮮ノ(シーメンズドウシタ)ト呼フ者アリ

○朝鮮ノ間ニ於テ、朝鮮ノ統治上ノ事ニ就テ色々御意見ガアツタ中ニ、様々ナル拂下ノ事

デアルトカ、取引ノ事デアルトカ云フコトヲ仰セラレタヤウニ覺エテ居リマスガ、是等ハ何等事實ガ無イノデアリマス、若シ其事實ガ有リトスルナラバ、其事ヲ指摘シテ、ドウゾ御質問下サレムコトヲ切ニ希望致シマス、(拍手起ル)私一身上ニ關スル事ハ、既ニ此所デ打止メニナリマシタカラ申上デマセヌガ、私ニ於テハ何等破廉耻ノ事ハ無イノデアリマス(拍手起ル)(ノウ)ト呼フ者アリ

○佐々木安五郎君 議長、議長……

○岩崎勳君 討論終結ノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成者〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 討論終結ノ動議ニ贊成ノ方ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者〕起立

○議長(奥繁三郎君) 多數討論ハ終結サレマシタ

〔贊成者〕起立

○議長(奥繁三郎君) 本案ニ就テ採決シマス、此決議案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者〕起立

○議長(奥繁三郎君) 多數々々「少數々々」ト呼フ者アリ

〔反對〕贊成「多數々々」少數々々ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 起立少數(拍手起ル)仍テ決議案ハ否決サレマシタ

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成者〕起立

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニハ贊成ガアルト認メマス、仍テ延期スルコトニ決シマシタ、本日ハ是ニテ散會

午後五時三十二分散會

衆議院議事速記第二十四號正誤

頁	段	行	誤	正
四五六	中	二二	「バンカース」ト云フ婦人	「バンクウースト」夫人